

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 .....	2
	(1) 理工学研究科理工学専攻を設置する大学等の現状把握・分析 .....	2
	(2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析 .....	2
	(3) 理工学研究科理工学専攻の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等 .....	3
	(4) 学生確保の見通し .....	5
	(5) 学生確保に向けた具体的な取組状況と見込まれる効果 .....	8
2	人材需要の動向等社会の養成 .....	9
	(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要) .....	9
	(2) 上記(1)が社会的, 地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観 的な根拠 .....	9

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 理工学研究科理工学専攻を設置する大学等の現状把握・分析

本学では、大学院における人材養成機能の一層の充実・強化のために、令和4年4月に大学院修士課程を全面的に改組し、3研究科（人文社会芸術総合研究科、総合医薬学研究科及び理工学研究科）と文理融合教育を行う持続可能社会創成学環、医学、薬学、理学及び工学の融合教育を行う医薬理工学環を設置した。

現在博士課程においては、大学院医学薬学教育部、大学院理工学教育部及び大学院生命融合科学教育部の3教育部体制としており、教育部の下に設置された専門区分ごとの専攻単位において、最先端の教育・研究を通じた高度な人材の輩出について一定の成果を挙げている。理工学教育部博士課程は、理学と工学の分野の融合という趣旨で理工融合の4専攻となっているが、社会情勢、科学技術の変化等により、現在の4専攻の分野編成では、現在のニーズに対応できなくなっており、現在のニーズに応える技術革新に向けた分野の再編成が必要である。また、令和4年から大学院理工学研究科の修士課程の構成を1専攻8プログラムに再編したが、現在の博士課程の編成は新たな修士課程と大きく異なっており、修士課程から博士課程にかけての一貫した教育によって、高度理工系人材を輩出するためには支障が生じている。

#### (2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析

近年、科学技術、なかでも情報工学の急速な進歩により、Society5.0を牽引する幅広い分野の連携や融合によるイノベーションが強く求められつつある。また、SDGsの達成に向けて、世界的な環境・エネルギー問題の解決も強く求められている。このような動向は、令和3年3月26日閣議決定の「第6期科学技術・イノベーション基本計画」においても示されており、「新たな社会を設計し、その社会で新たな価値創造を進めていくためには、多様な「知」が必要である」とされ、特にSociety5.0への移行においては、「新たな技術を社会で活用するにあたり生じるELSI（倫理的・法的・社会的な課題）に対応するためには、俯瞰的な視野で物事を捉える必要がある」とされている。さらに、Society5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策における、地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続なイノベーションの推進として、「地球規模課題が深刻化する中で、我が国の温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロとし、世界のカーボンニュートラルを牽引するとともに、循環経済への移行を進めることで、気候変動をはじめとする環境問題の克服に貢献し、SDGsを踏まえた持続可能性」を確保することが目標として挙げられている。

このような社会情勢を背景に、理工系人材には、自身の専門分野だけではなく、幅広い分野横断的な知識と視野を持ち、産業界においてもリーダーとして社会的に説明責任を果たしつつイノベーションを牽引できる理工系高度職業人や、基礎・応用において革新をもたらすような研究者の養成が強く求められている。このような人材の育成と供給は、

「新・富山県ものづくり産業未来戦略（平成31年3月策定）」においても、デジタルものづくり・ビッグデータ、医薬工連携、環境・エネルギー、ロボット、高機能素材等が重点化に位置付けられており、第2次産業を主体とした工業が盛んな富山県においても重要である。

### **（3）理工学研究科理工学専攻の趣旨目的、教育内容、定員設定等**

#### **1）趣旨目的、教育内容**

これまで理工学教育部博士課程で実践してきた理学系と工学系の分野の融合を更に発展させ、幅広い視野を持つとともに高度な専門性を備えた理工系高度職業人や研究者を育成することが求められている。そのために、理工学教育部博士課程を時代の要請に応じた融合的教育が可能かつ専門分野を明確にした組織として再編成とする必要がある。博士課程において、より分野融合的で高度な教育を実施し、社会から強く求められている各分野の人材を養成するために、令和4年に改組した理工学研究科修士課程の学年進行に合わせて、令和6年に理工学教育部の4専攻を、理工学研究科理工学専攻の1専攻4プログラムとして再編する。

本研究科は、理工学及びその関連分野の学術的な理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識、卓越した能力、及び倫理観を培い、自然科学及び科学技術の発展に寄与することを目的とする。

理工学研究科博士後期課程の設置にあたっては、現代の社会的要請を背景に、博士前期課程と連携して、理学・工学の学問領域の相補的・相乗的な連携を強化し、より高度な専門教育を行っていく。これにより、先端的な自然科学の成果を社会に対して説明責任を果たしつつ社会実装できる高度理工系人材・研究者及び、新しい融合学問領域におけるイノベーションに貢献できる高度理工系人材・研究者を育成することを目的として教育研究を行う。

修了認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力(基盤的能力、専門的学識、倫理観、創造力)を修得させるため、大学院共通科目、研究科共通科目、プログラム専門科目の3つの科目群を設けることで、体系的な教育課程を編成する。

博士前期課程で、幅広い知識を身に付ける大学院共通科目、理学と工学の枠を超えた自然科学の基盤的知識や技術を身に付ける研究科共通科目及び専門の高度な知識や技術を身に付けるプログラム専門科目を履修する。博士後期課程ではプログラム専門科目を集中的に履修するとともに、研究説明能力、研究を設計する能力を身に付けるための「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」を大学院共通科目として、異分野融合を目的とした「異分野研究体験」や社会で活躍する基盤を身に付ける「長期インターンシップ」、「プレFD」といった科目を研究科共通科目として履修する。博士前期課程と同様に、博士後期課程においても複数の指導教員による多面的な視点による研究指導を行うことで、幅広い視野から普遍的能力と専門的能力の両方を身に付けることができる。

その教育課程により、以下のような能力の修得が期待できる。

・理工学の各分野あるいは医学薬学との境界領域において、新たな問題を発見し解決す

るための基となる知識及び大局的な視野を身に付ける。

- ・自プログラムの専門性の高い授業科目を学修するとともに、学術論文の講読や学会等への参加により研鑽を積む。演習等において指導教員と意見交換を行いながら、博士研究を計画・推進し、研究成果を学術論文としてまとめ、発表する。
- ・研究の遂行に際して法令を遵守することを含め、研究倫理に関する規範意識を身に付ける。
- ・先行研究を踏まえて独自の研究を計画、推進、及び成果発表する能力を身に付ける。

## 2) 定員設定

改組後の理工学研究科は、現在の理工学教育部博士課程の改組により設置する研究科であり、入学者の属性についても基本的には改組前の組織とほぼ同じとなることを想定している。また、理工学研究科博士後期課程の設置と同時に、本研究科と総合医薬学研究科との連携により、研究科等連係課程実施基本組織として医薬理工学環博士後期課程も設置するため、医薬理工学環への定員拠出分も含めて、入学定員を設定する。

そのため、理工学教育部博士課程の各専攻及び生命融合科学教育部の各専攻（3年制博士課程のみ）の入学者実績に加えて、社会的ニーズが高い分野である数理情報学・データサイエンスプログラムに社会人早期修了プログラム（募集人員2名）を新たに導入することで更なる定員増が見込まれるため、理工学研究科理工学専攻の入学定員は、29名（プログラムごとの募集人数は表1）に設定した。

なお、医薬理工学環に対しては、本研究科から5名の入学定員を拠出する。

表1 理工学研究科理工学専攻 プログラム別の募集人数

プログラム名	募集人数
数理情報学・データサイエンスプログラム	11
生命・物質・エネルギー科学プログラム	5
サステイナブル地球環境学プログラム	5
先進工学プログラム	3
医薬理工学環への拠出分	5
総計	29

## 3) 入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

学生納付金については、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」により標準額が定められており、各国立大学法人が一定の範囲内でそれぞれ決定することとなっている。本学は「富山大学における授業料その他の費用に関する規則」（資料1）のとおり、国が定める標準額と同じく授業料年額535,800円、入学料282,000円を設定する。

#### (4) 学生確保の見通し

1) 学生確保の見通しの調査結果, 2) 理工学研究科理工学専攻の分野の動向及び競合校の状況, 3) 既設専攻等の学生の確保の状況において検討・分析した事項の観点に加えて, (5) 学生確保に向けた具体的な取組状況と見込まれる効果に記載している, 社会人早期修了プログラムを新たに設けることにより見込まれる入学者増加から総合的に判断すると, 本研究科の入学定員29名(医薬理工学環への拠出する入学定員を含む)は, 充足できると判断できる。

##### 1) 学生確保の見通しの調査結果

本研究科を設置する令和6年4月に理工学研究科博士後期課程への進学が見込まれる本学大学院の修士課程1年次生に対してアンケート調査を実施した(回答数:129)(資料2)。

修士課程修了後に, 本学大学院(博士(後期)課程)への進学を考えていると回答した学生に進学したいプログラムを聞いたところ, 理工学研究科の各プログラムに「ぜひ進学したい」と回答した人数は, 17名(数理情報学・データサイエンスプログラム7人, 生命・物質・エネルギー科学プログラム4人, サステイナブル地球環境学プログラム3人, 先進工学プログラム3人)であった。この他, 令和6年4月には一旦就職を希望しているものの, 就職後「ぜひ入学したい」「条件を整えば入学したい」と回答した人数は6名(数理情報学・データサイエンスプログラム1人, 生命・物質・エネルギー科学プログラム2人, サステイナブル地球環境学プログラム1人, 先進工学プログラム2人)であった。

アンケート調査の結果は, 理工学研究科修士課程からの入学の見込み数のみを示すため, 学外からの入学者については, 過去5年間の入学実績を使って説明する。本研究科の改組元となる理工学教育部博士課程の学外からの入学者実績は平成30年度から令和4年度の5年間の平均で19.6人(表2)となっており, 理工学教育部博士課程の全入学生に占める学外からの入学者の割合は約84%と高い。改組後の理工学研究科は, 現在の理工学教育部博士課程の改組により設置する研究科であり, 入学者の属性についても基本的には改組前の組織とほぼ同じとなることを想定しているため, 改組後も引き続き, 学外から同程度が入学することを見込んでいる。

以上のとおり, アンケート結果と学外からの入学実績より, 改組後の理工学研究科博士後期課程においても, 医薬理工学環への拠出数を除く24名の定員を確保できると判断できる。

表2 理工学教育部（博士課程）における過去5年間の学外からの入学実績

研究科・専攻	募集人員	H30	H31	R2	R3	R4	5年間平均
数理・ヒューマンシステム科学専攻	5	2	5	11	5	13	7.2
ナノ新機能物質科学専攻	4	10	4	9	10	7	8.0
新エネルギー科学専攻	3	2	2	1	1	1	1.4
地球生命環境科学専攻	4	1	3	3	5	3	3.0
計	16	15	14	24	21	24	19.6

## 2) 理工学研究科理工学専攻の分野の動向及び競合校の状況

本研究科は、社会のニーズに応えるため技術革新に向けた分野を再編成し、理学と工学の分野を融合した教育課程を構築するために、現在の4専攻を1専攻に再編する。本学と同じく、理工学研究科を称する研究科は全国に数多く存在するが、理工学研究科を有する地方国立大学で、本研究科と同じく1専攻としており、博士課程の募集人員の規模が同程度である佐賀大学及び秋田大学が競合校として考えられる。各大学の令和4年度の入学状況は表3のとおりである。

表3 理工学分野（大学院博士後期課程）の令和4年度の入学状況

大学名	研究科・専攻	募集人員	志願者数	入学者数	入学定員充足率
佐賀大学	理工学研究科理工学専攻	20	24	20	1.00
秋田大学	理工学研究科総合理工学専攻	10	10	10	1.00

佐賀大学理工学研究科博士後期課程では、募集人員20名で令和4年度の入学定員充足率は1.00倍、秋田大学理工学研究科総合理工学専攻は本学より募集人員がやや少ないものの募集人員10名で令和4年度の入学定員充足率は1.00倍となっており、競合校と考えられる各大学院においては、いずれも理工学分野の学生を充足させることができているため、当該分野における学生及び社会のニーズは十分に存在すると考えられる。

## 3) 既設専攻等の学生の確保の状況

本研究科の改組元である理工学教育部博士課程の入学者については、平成30年度から令和4年度の5年間の内訳は表4のとおりである。

理工学教育部博士課程の入学実績は、募集人員16名に対して、平成30年度から令和4年度の5年間の各年度の入学者数は、平成30年度：16名、平成31年度：20名、令和2年度：29名、令和3年度：24名、令和4年度：28名で、平均入学者は23.4名である。入学者数は増加傾向にあり、他の年度と集計期間は異なるものの令和5年度は4月時点で27名入学し

しており、平成31年度から令和5年度の5年間の平均入学者は25.6名で、十分に学生を確保している。

入学定員29名には医薬理工学環への定員の拠出数も含むため、生命融合科学教育部の3年制博士課程の入学実績（表5）も考慮する必要がある。平成30年度から令和4年度の5年間の各年度の入学者数は、平成30年度：6名、平成31年度：3名、令和2年度：4名、令和3年度：2名、令和4年度：1名であり、平均入学者は3.2名であった。生命融合科学教育部は、医学・薬学・理学・工学の学際融合的な教育研究組織であるため、進学元の修士課程における学生の分野比率（理工7：医薬1）を踏まえると、3年制博士課程（生体情報システム科学専攻・先端ナノ・バイオ科学専攻）における、理工系の学生は約2.8名（3.2名×7/8）である。

既設専攻である理工学教育部や生命融合科学教育部における実績に加えて、(5)で示す学生の確保に向けた具体的な取組を行うことにより、博士後期課程への進学者が増加することを見込んでいるため、改組後の理工学研究科においても継続的に入学定員を充足できると判断できる。

表4 理工学教育部（博士課程）専攻別の過去5年間の入学志願状況

専攻	年度	平成30年度				平成31年度			
	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
数理・ヒューマンシステム科学専攻	5	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	7 (5)	7 (5)	7 (5)	7 (5)
ナノ新機能物質科学専攻	4	11 (5)	11 (5)	11 (5)	10 (5)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)
新エネルギー科学専攻	3	3 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	5 (0)	5 (0)	5 (0)	5 (0)
地球生命環境科学専攻	4	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)
計	16	18 (7)	18 (7)	18 (7)	16 (7)	20 (10)	20 (10)	20 (10)	20 (10)

専攻	年度	令和2年度				令和3年度			
	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
数理・ヒューマンシステム科学専攻	5	14 (12)	14 (12)	13 (11)	13 (11)	6 (4)	6 (4)	6 (4)	5 (4)
ナノ新機能物質科学専攻	4	9 (8)	9 (8)	9 (8)	9 (8)	12 (8)	12 (8)	12 (8)	11 (8)
新エネルギー科学専攻	3	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
地球生命環境科学専攻	4	5 (3)	5 (3)	5 (3)	5 (3)	7 (2)	7 (2)	6 (2)	6 (2)
計	16	30 (24)	30 (24)	29 (23)	29 (23)	27 (14)	27 (14)	26 (14)	24 (14)

専攻	年度	令和4年度				5年間平均			
	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
数理・ヒューマンシステム科学専攻	5	14 (11)	14 (11)	14 (11)	14 (11)	8.6 (6.6)	8.6 (6.6)	8.4 (6.4)	8.2 (6.4)
ナノ新機能物質科学専攻	4	8 (6)	8 (6)	8 (6)	8 (6)	8.8 (6.2)	8.8 (6.2)	8.8 (6.2)	8.4 (6.2)
新エネルギー科学専攻	3	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2.6 (0.2)	2.6 (0.2)	2.6 (0.2)	2.4 (0.2)
地球生命環境科学専攻	4	5 (1)	5 (1)	5 (1)	5 (1)	4.6 (1.6)	4.6 (1.6)	4.4 (1.6)	4.4 (1.6)
計	16	28 (18)	28 (18)	28 (18)	28 (18)	24.6 (14.6)	24.6 (14.6)	24.2 (14.4)	23.4 (14.4)

注：( )内の数は、外国人留学生の数を内数で示す。

表5 生命融合科学教育部（3年制博士課程のみ）の専攻別の過去5年間の入学志願状況

専攻	年度	平成30年度				平成31年度			
	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生体情報システム科学専攻	4	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)
先端ナノ・バイオ科学専攻	4	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
計	8	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)

専攻	年度	令和2年度				令和3年度			
	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生体情報システム科学専攻	4	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
先端ナノ・バイオ科学専攻	4	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
計	8	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)

専攻	年度	令和4年度				5年間平均			
	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生体情報システム科学専攻	4	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1.6 (0.4)	1.6 (0.4)	1.6 (0.4)	1.6 (0.4)
先端ナノ・バイオ科学専攻	4	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.6 (0.6)	1.6 (0.6)	1.6 (0.6)	1.6 (0.6)
計	8	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3.2 (1.0)	3.2 (1.0)	3.2 (1.0)	3.2 (1.0)

注：（ ）内の数は、外国人留学生の数を内数で示す。

### （5）学生確保に向けた具体的な取組状況と見込まれる効果

社会人入学者を増やすために、社会的ニーズが高い分野である、数理情報学・データサイエンスプログラムに令和6年度より社会人早期修了プログラムを新たに導入する。これにより、令和6年度以降は更に2名の入学者増加が見込まれる。

大学院進学においては、修士課程への進学率と比較して、博士課程への進学率は大きく減少する傾向がある。その原因として、博士課程在学中の経済的負担と博士課程修了後の就職の困難さが挙げられる。これらの問題に対して、博士課程学生への経済的な支援策としては2つの奨学金事業（富山大学地域産業イノベーション創出フェロースhip事業（以下、フェロースhip事業）、富山大学「人」と「地」の健康を科学する 博士後期課程学生支援プロジェクト（以下、SPRING事業））を進めている。本研究科の改組元である理工学教育部において令和3年度から令和5年度の間、フェロースhip事業で15名、SPRING事業で23名の奨学支援を行った。これにより博士進学への負担軽減を通して、令和4年度は前年度から4名の入学者の増加につながり、今後も博士課程進学者数の増加につながるものと期待できる。また、この事業において、修了後の就職の困難さの解消を軽減するために、インターンシップあるいは留学を義務付けている。

また、博士課程修了後の就職につなげるために、本研究科においても「長期インターンシップ」や「プレFD」といった科目を設置し、専門を社会で活かすための能力開発を行う。「長期インターンシップ」では自身の能力を企業で活かす経験を積み、企業とのマッチングを通して、博士課程修了後の就職をより容易にしていけることができる。「プレFD」では研究者志望の学生が大学等の教育機関における教育の技術と経験を積むことで、アカデミックな分野での就業をしやすくすることができる。これらの取り組みにより博士課程進学予定者が抱いている、博士課程修了後に就職が困難であるという不安を軽減し、博士課程進学者



の増加につなげる。

## 2 人材需要の動向等社会の養成

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

理工学専攻博士後期課程は、博士前期課程と連携して、理学・工学の学問領域の相補的・相乗的な連携を強化し、より高度な専門教育を行っていくことにより、先端的な自然科学の成果を社会に対して説明責任を果たしつつ社会実装できる高度理工系人材・研究者及び、新しい融合学問領域におけるイノベーションに貢献できる高度理工系人材・研究者を育成することを目的とする。この目的の下、理学系と工学系の融合と異分野間の融合的教育を目指して新たに設置された修士課程8プログラムの各分野について、修士課程との連結を重視しつつも、博士課程においてより分野融合的で高度な教育を実施するために、修士課程の8プログラムを再編・融合した4プログラムを博士後期課程に設置する。

各プログラムが養成する人材像は、次のとおりである。

<各プログラムが養成する人材像>

#### ① 数理情報学・データサイエンスプログラム

数学、情報学及びデータサイエンスに必要なプログラミングやコンピューター、AIについての素養を主に必要とする数理情報学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人及び研究者を養成する。

#### ② 生命・物質・エネルギー科学プログラム

理学と工学の分野にまたがって、生命、物質、エネルギーの各分野について、物理学的及び化学的観点から理解し、イノベーションや問題解決に当たれる高度専門職業人及び研究者を養成する。

#### ③ サステイナブル地球環境学プログラム

地球科学、生物科学、環境科学の主たる学問分野を広く修得し、持続可能社会に貢献する高度専門職業人及び研究者を養成する。

#### ④ 先進工学プログラム

機械工学、エレクトロニクス、ロボティクス、材料科学、社会基盤工学の工学分野の専門能力を身に付け、データを活用して、イノベーションや問題解決に当たれる高度専門職業人及び研究者を養成する。

### (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### 1) 理工学分野に関する国際的状況、及びわが国における状況

近年のICTが目覚ましい発達により、我が国の社会や世界は、かつてない速さで変化し続けている。そうした中、「第5期科学技術基本計画」(平成28年1月22日閣議決定)においては、我が国が目指すべき未来社会の姿として「Society 5.0」が提唱され、非連続なイ

ノベーションの創出と大学院教育改革を通じたそれを支える人材の育成が示されている。

また、地球規模で人やモノ、資本が移動するグローバル経済の下では、経済問題、気候変動、自然災害、感染症といった地球規模の課題も世界全体に連鎖して発生し、一国の課題が一国に留まらない状況となっている。そうした背景から、2015年9月に国連で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、持続可能な開発目標（SDGs）が示され、我が国においても「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（平成28年12月22日 内閣SDGs推進本部決定）が定められた。指針では、国際協調主義の下、国際協力への取組を一層加速していくことに加え、国内における経済、社会、環境の分野での課題にも、またこれらの分野を横断する課題にも、国内問題として取組を強化するのみならず、国際社会全体の課題としても取り組む必要があると述べられている。

このような状況をふまえ、「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（令和3年3月26日閣議決定）においても、Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーションとともにSDGsの達成に向けた取組みが求められている。そして、中央教育審議会大学分科会の「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ）」（平成31年1月22日）においては、「とりわけ大学院は、Society 5.0を先導し牽引する高度な人材をはじめとする「知のプロフェッショナル」の育成を中心的に担う存在となる」と述べられている。また、「教育未来創造会議の第一次提言（令和4年5月10日）」においても、科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成、高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加が求められている。

このように社会に強く求められる、デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、などSociety 5.0の実現やSDGsの達成に貢献し、科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材や研究者を養成するために、理工学研究科は、デジタル、人工知能に関わる人材を養成する数理工学・データサイエンスプログラム、グリーン（脱炭素化など）に関わる人材を養成する生命・物質・エネルギー科学プログラム、持続可能な社会への変革に寄与する人材を養成するサステイナブル地球環境学プログラム、Society 5.0の実現に向けたイノベーションに取り組む人材を養成する先進工学プログラムの各プログラムを設置して、社会的、地域的な人材需要に応じていく。

そして我が国は、世界有数の高齢化が進行した国であり、生産年齢人口比率も急速に減少している。一方で、健康寿命は更に延びて「人生100年時代」が提唱される中、年齢による就業の壁が低くなり、キャリアアップのための学び直しや高齢者の就業・社会参加の増加など新たな社会的ニーズの発生が見込まれている。そのような社会人の活躍の場のひろがりに際して、高度化する科学技術に対応した能力向上が求められる。社会人の能力向上のための学び直しの場合としても理工学研究科がその役割を果たしていくことができる。

## 2) 理工学研究科に関する社会的ニーズ

本研究科が設置された際に、修了生の輩出が見込まれる企業等にアンケートを実施（回答数：90）した（資料3）。アンケートにおいて、本研究科への評価は以下のとお

りであり、本研究科への高いニーズが伺える。

【富山大学大学院博士課程（主に理系大学院）に関するアンケート】

対 象：過去5年間に富山大学大学院修了者の就職実績がある企業

回答数：90

○大学院理工学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。

→「とても評価できる：43」又は「すこし評価できる：25」と回答した企業は68件（75.6%）と7割以上が評価できると回答しており、本研究科への高い期待を有している。また、「とても評価できる」又は「少し評価できる」と回答した企業の内訳は、富山県が23.5%で一番多く、富山県、石川県、福井県の北陸3県で全体の36.8%を占めている。

○大学院理工学研究科において、理学と工学の分野が連携し基礎・応用の技術革新を目指して、理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材を、これまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要と考えますか。

→「極めて必要である：39」又は「どちらかという必要である：37」と回答した企業は76件と（84.4%）と8割以上が必要であると回答しており、本研究科への高い期待を有している。また、「極めて必要である」又は「どちらかという必要である」と回答した企業の内訳は、富山県が23.7%で一番多く、富山県、石川県、福井県の北陸3県で全体の35.5%を占めている。

○大学院理工学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。

→「積極的に採用したい：37」又は「どちらかといえば採用したい：24」と回答した企業は61件と（67.8%）と7割近い企業が採用したいと回答しており、本研究科に高い期待が寄せられていると考えられる。「積極的に採用したい」又は「どちらかといえば採用したい」と回答した企業の内訳は、富山県が23.0%で一番多く、富山県、石川県、福井県の北陸3県で全体の29.5%を占めている。

以上のように本研究科の改組構想は7割以上の企業に評価されており、本研究科において理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材をこれまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要とする企業が8割以上、本研究科の修了者を採用したいと考える企業が7割近く存在している。また、各質問において、肯定的な回答をした企業の内訳は、いずれも北陸3県が全体の上位を占めており、社会的、地域的な高い人材需要が存在していることを示している。

## 資料目次

### (学生の確保の見通し等を記載した書類)

資料1	富山大学における授業料その他の費用に関する規則 .....	02
資料2	富山大学大学院博士課程に関する学生アンケート .....	09
資料3	富山大学大学院博士課程（主に理系大学院）に関するアンケート .....	37

## 富山大学における授業料その他の費用に関する規則

平成17年10月1日制定	平成18年4月1日改正
平成18年9月21日改正	平成19年4月1日改正
平成20年4月1日改正	平成21年4月1日改正
平成22年4月1日改正	平成27年4月1日改正
平成29年7月11日改正	令和元年9月24日改正
令和2年3月24日改正	令和2年7月1日改正
令和4年3月30日改正	令和4年9月29日改正

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人富山大学（以下「本学」という。）における授業料その他の費用に関し、他の規則に別段の定めのあるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(授業料，入学料及び検定料の額)

第2条 本学において徴収する授業料（幼稚園にあつては、保育料。以下同じ。）の年額，入学料（幼稚園にあつては、入園料。以下同じ。）及び入学等に係る検定料は、次の表のとおりとする。

区分		授業料（年額）	入学料	検定料
大学の学部		535,800円	282,000円	17,000円
大学の夜間において授業を行う学部		267,900円	141,000円	10,000円
大学院の研究科，教育部及び学環		535,800円	282,000円	30,000円
転入学 編入学 再入学	大学の学部	535,800円	282,000円	30,000円
	大学院の研究科，教育部及び学環			
	大学の夜間において授業を行う学部	267,900円	141,000円	18,000円
研究生		(月額) 29,700円	84,600円	9,800円
科目等履修生		(1単位) 14,800円	28,200円	9,800円
特別聴講学生		(1単位) 14,800円	—	—
特別研究学生		(月額) 29,700円	—	—
幼稚園		73,200円	31,300円	1,600円
特別支援学校の高等部		4,800円	2,000円	2,500円

2 本学に附属して設置される小学校，中学校並びに特別支援学校の小学部及び中学部の入学料は、これを徴収しないものとする。

3 小学校及び中学校並びに特別支援学校の小学部及び中学部において、入学を許可するための試験，健康診断，書面その他による選考等を行った場合に徴収する検定料の額は、次の表のとおりとする。

区分	検定料
小学校	3,300円
中学校	5,000円
特別支援学校の小学部	1,000円
特別支援学校の中学部	1,500円

- 4 大学の学部において、出願書類等による選抜（学校推薦型選抜及び総合型選抜等において第1次選考として書類審査等を行う場合を含む。以下「第1段階選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下「第2段階選抜」という。）を行う場合及び個別学力検査出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願資格のない者（以下「個別学力検査出願無資格者」という。）であることが判明した場合の検定料は、第1項の規定にかかわらず、次の表の学部等の区分に応じ、第1段階選抜及び個別学力検査出願無資格者にあつては同表の中欄に掲げる額を、第2段階選抜にあつては同表の右欄に掲げる額のとおりとする。

区分	第1段階選抜	第2段階選抜
	個別学力検査出願無資格者	
大学の学部	4,000円	13,000円
大学の夜間において授業を行う学部	2,200円	7,800円

- 5 幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校において、抽選による選考等を行い、その合格者に限り試験、健康診断、書面その他による選考等（以下この項において「試験等」という。）を行う場合に係る検定料は、第1項及び第3項の規定にかかわらず、次の表の学校等の区分に応じ、抽選による選考等にあつては、同表の中欄に掲げる額を、試験等にあつては、同表の右欄に掲げる額のとおりとする。

区分	抽選による選考等	試験等
幼稚園	700円	900円
小学校	1,100円	2,200円
中学校	1,300円	3,700円
特別支援学校の小学部	500円	500円
特別支援学校の中学部	600円	900円
特別支援学校の高等部	700円	1,800円

- 6 幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校の転入学に係る入学料及び検定料は、次の表のとおりとする。

区分	入学料	検定料
幼稚園	31,300円	1,600円
小学校	—	3,300円
中学校	—	5,000円
特別支援学校の小学部	—	1,000円
特別支援学校の中学部	—	1,500円
特別支援学校の高等部	2,000円	2,500円

（長期履修に係る授業料）

第3条 学則第62条に規定する修業年限及び大学院学則第25条に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して卒業又は修了することを認められた者から徴収する授業料の年額は、当該在学を認められた期間（以下「長期履修期間」という。）に限り、前条第1項に規定する授業料の年額に修業年限又は標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修期間の年数で除した額（その額に十円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。）とする。

2 学部及び大学院研究科（教育部及び学環を含む。以下同じ。）において長期履修期間を短縮する変更が認められた場合の授業料の額は、初年度から変更後の長期履修期間により前項の規定に従い算出した額とし、変更前の授業料の額との差額については、長期履修期間を変更した最初の学期にそれを徴収する。

3 学部及び大学院研究科において長期履修期間の延長が認められた場合の授業料の額は、変更後の長期履修期間により第1項の規定に従い算出した額とし、既に履修した期間の授業料の額との差額については、その調整は行わない。

4 長期履修期間を超えてなお在学する者の授業料の額は、前条第1項に定める額とする。  
（授業料の徴収方法等）

第4条 各年度に係る授業料の徴収は、当該年度において、学期その他の期間に区分して行うことを原則とする。ただし、学生又は生徒等の申出があったときは、一括して徴収することができる。

2 前項の規定にかかわらず、入学年度に係る授業料について、入学を許可される者の申出があったときは、入学年度の前年度において入学を許可するときにその一部又は全部を徴収することができる。

第5条 当該年度における在学期間が12月に満たない者の授業料は、授業料の年額の12分の1に相当する額に在学する月数（1月未満の端数があるときは、これを1月とする。）を乗じて得た額を徴収することを原則とする。

（入学料の徴収方法）

第6条 入学料は、入学を許可するときに徴収することを原則とする。

（検定料の徴収方法）

第7条 検定料は、入学、転入学、編入学又は再入学の出願（第2条第3項、第4項及び第5項に規定する場合を含む。）を受理するときに徴収することを原則とする。

（寄宿料の額等）

第8条 寄宿料の月額は、次の表の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる額のとおりとする。

区分		寄宿料（月額）
新樹寮	S I	13,000円
	S II	18,000円
	D I	23,000円
五福国際交流会館	単身室	5,900円
	夫婦室	9,500円
	家族室	14,200円
杉谷国際交流会館	A室 世帯用（60㎡以上）	14,200円

	B室 世帯用 (50~60㎡)	11,900円
	C室 単身用 (25㎡以上)	5,900円

備考：新樹寮は、上記寄宿料のほか、維持管理費（共益費）月額2,000円を徴収する。

2 寄宿料は、寄宿舎に入居した日の属する月から退居する日の属する月まで、毎月その月の分を徴収することを原則とする。ただし、休業期間中の分は、休業期間前に徴収するものとする。

3 前項の規定にかかわらず、学生の申出又は承諾があったときは、その申出又は承諾があった月分の寄宿料を併せて徴収することができる。

第8条の2 前条の規定にかかわらず、寄宿料は、次の表の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる額に、入居した日から退去する日までの日数を乗じた額とすることができる。

	区分	寄宿料（日額）
新樹寮	S I	900円
	S II	1,000円

2 寄宿料は、入居する日までに徴収することを原則とする。

（経済的負担の軽減のための措置）

第9条 本学は、学部及び大学院研究科の学生で経済的理由によって納付が困難であると認められる者その他のやむを得ない事情があると認められる者に対し、授業料、入学料又は寄宿料の全部若しくは一部の免除又は徴収の猶予その他の経済的負担の軽減を図るために必要な措置を講ずるものとする。

（研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び特別研究学生の授業料の徴収方法）

第10条 研究生及び科目等履修生に係る授業料の徴収方法は、別に定める。

2 特別研究学生又は特別聴講学生に係る授業料の徴収方法は、研究生又は科目等履修生と同様とする。

第11条 削除

（学位論文審査手数料の額及び徴収方法）

第12条 学位論文審査手数料は1件について58,055円とし、学位授与の申請を受理するときに徴収するものとする。

2 本学大学院の博士課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、退学後1年以内に博士論文を提出した場合は、学位論文審査手数料を免除する。

（授業料免除等の取扱い）

第13条 授業料の免除の許可を受けた者について、免除の理由が消滅したことによりその免除を取り消した場合は、免除した前期及び後期の授業料の額を当該前期及び後期の月数で除して得た額に取り消しの日の属する月からその期の終わりの月までの月数を乗じて得た額を、取り消しの日の属する月に徴収するものとする。ただし、不正の事実の発見により取り消した場合にあっては、取り消しの日の属する月に、免除した前期又は後期の授業料の全額を徴収するものとする。

2 授業料の徴収猶予の許可を受けた者から授業料を徴収する時期は、徴収猶予の期間が満了する日の属する月とする。ただし、徴収猶予の理由が消滅したときは、その消滅した日の属する月に徴収するものとする。

3 月割分納による授業料の徴収猶予の許可を受けた者からは、毎月その月の分を徴収するものとする。ただし、休業期間中の分は、休業期間の開始前に徴収するものとする。

4 授業料の徴収猶予（月割分納による徴収猶予を含む。）の許可を受けた者が退学をする



場合は、その期において徴収するものとしている額を、退学の許可をするときに徴収するものとする。

- 5 前4項に規定するもののほか、授業料等の免除又は徴収猶予の実施について必要な事項は、別に定める。

(授業料等の不徴収)

第14条 本学大学院研究科の修士課程を修了し、引き続き本学大学院教育部の博士課程に進学する者については、入学料及び検定料を徴収しないものとする。

- 2 大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第28条並びに大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第13条及び第15条の規定に基づく措置により、本学において授業科目を履修する者(以下「特別聴講学生」という。)又は研究指導を受ける者(以下「特別研究学生」という。)に係る入学料及び検定料は、徴収しないものとする。また、授業料については、特別聴講学生又は特別研究学生が公立大学又は私立大学の学生であるときは、第2条で定める額を徴収し、国立大学法人法(平成15年法律第112号)に定める国立大学の学生であるときは徴収しないものとする。

- 3 大学間相互単位互換協定に基づく特別聴講学生に係る入学料及び検定料は、徴収しないものとする。また、次の基準を満たす場合は授業料を徴収しないものとする。

(1) 協定を締結する大学の学生が、相互にそれぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認める協定であること。

(2) 締結する協定又はその付属書において、授業料が相互に不徴収とされていること。

(3) 締結する協定又はその付属書において、有効期間が記載されていること。

- 4 大学間特別研究学生交流協定に基づく特別研究学生に係る、入学料及び検定料は徴収しないものとする。また、次の基準を満たす場合は授業料を徴収しないものとする。

(1) 協定を締結する大学の大学院学生が、相互に当該他の大学院等において研究指導を受けることを認める協定であること。

(2) 締結する協定又はその付属書において、授業料が相互に不徴収とされていること及び有効期間が記載されていること。

- 5 相互に検定料及び入学料を不徴収とする大学間協定を締結した国立大学法人が設置する大学の大学院から本学の大学院に転入学を志願する者にあつては、検定料及び入学料を徴収しないものとする。

- 6 産業教育振興法に基づく内地留学生及び科学教育研究室の研究生等別途実施要項等による者については、授業料、入学料及び検定料を徴収しないものとする。

(外国人留学生)

第15条 大学間交流協定、学部間交流協定及びこれらに準ずるものに基づき受け入れる外国人留学生については、締結する協定書又はその付属書において、授業料、入学料及び検定料が相互に不徴収とされている場合は、授業料、入学料及び検定料を徴収しないものとする。

- 2 国費外国人留学生については、授業料、入学料及び検定料を徴収しないものとする。

- 3 前2項に掲げるもののほか、外国人留学生については、第2条から第10条まで、第12条から第14条までの規定を適用する。

(証明書の発行手数料の額及び徴収方法)

第16条 本学を卒業した者、修了した者、退学した者、除籍された者又は研究生、科目等履

修生、特別聴講学生若しくは特別研究学生であった者が、本学が指定した証明書交付願により交付申請する場合は、証明書1通当り500円の手数料を徴収するものとする。

- 2 前項の手数料は、交付申請を受理するときに徴収するものとする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当する場合は、手数料を徴収しないものとする。
  - (1) 本学の学生（研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び特別研究学生を含む。）が申請する場合
  - (2) 附属学校に係る証明書を申請する場合
  - (3) 卒業、修了、退学又は除籍の日の属する月に申請する場合
  - (4) 外国に居住又は滞在している者が外国から直接申請する場合（納付した授業料等）

第17条 納付した検定料、入学料、授業料、寄宿料、受講料及び証明書の発行手数料（以下「授業料等」という。）は還付しない。ただし、次の各号の一に該当する場合には、納付した者の申出により当該各号に定める額を還付する。

- (1) 本学の入学者選抜において、出願書類等による第1段階目の選抜を行い、その合格者に限り学力検査その他による第2段階目の選抜を行う場合に、検定料を納付した者が、第1段階目の選抜で不合格となったとき及び個別学力検査出願無資格者であることが判明した場合 第2条第4項の選抜に係る検定料相当額
- (2) 入学を許可されるときに授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合 当該授業料相当額
- (3) 前期分授業料徴収の際、後期分授業料を併せて納付した者が、9月末までに退学を許可された場合 後期分の授業料相当額
- (4) 前期分授業料徴収の際、後期分授業料を併せて納付した者が、10月末までに休学を許可され、又は命じられた場合 後期分の授業料から後期の在籍月数分を差引いた残月数分の授業料相当額
- (5) 研究生が、在学期間の中で退学した場合 納付された授業料から在学月数分を差引いた残月数分の授業料相当額
- (6) その他学長が、授業料等を返還するのが相当であると認めた場合 当該授業料等相当額

#### 附 則

- 1 この規則は、平成17年10月1日から施行する。
- 2 平成10年度以前入学生の授業料の額については、第2条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

区分	入学年度	授業料（年額）
大学の学部	平成7・8年度入学生	447,600円
	平成9・10年度入学生	469,200円
大学の夜間において授業を行う学部	平成9・10年度入学生	234,600円
大学院学生	平成9・10年度入学生	469,200円

- 3 第10条の規定にかかわらず、高岡キャンパスにおいて平成18年3月31日まで実施する公開講座の講習料及び公開授業の受講料については、1時間につき420円とする。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第14条第5項の規定は、平成18年度の転入学者から適用する。
- 2 この規則の施行前に認められた長期履修にかかる授業料の算出については、第3条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成18年9月21日から施行し、平成18年9月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の日前に、新樹寮に入寮している者で、この規則の施行後に引き続き新樹寮に入寮する者の寄宿料の額は、改正後の第8条第1項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までの間、月額700円とする。ただし、当該期間中に入寮生の申請により、改修後の居室に移動した場合は、改正後の第8条第1項の規定による。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和元年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年7月1日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年9月29日から施行する。

## 富山大学大学院博士課程に関する学生アンケート結果

## ■ 調査の概要

## (1) 調査（集計）の対象

富山大学に在籍する以下の学生

- ・大学院総合医薬学研究科（修士課程）1年生
- ・大学院理工学研究科（修士課程）1年生
- ・大学院医薬理工学環（修士課程）1年生
- ・大学院持続可能社会創成学環（修士課程）1年生

## (2) 調査の方法

上記対象学生に、ウェブ上で説明資料の提示を行った上で、アンケートへの回答を依頼した。  
またアンケートはウェブ上で実施した。

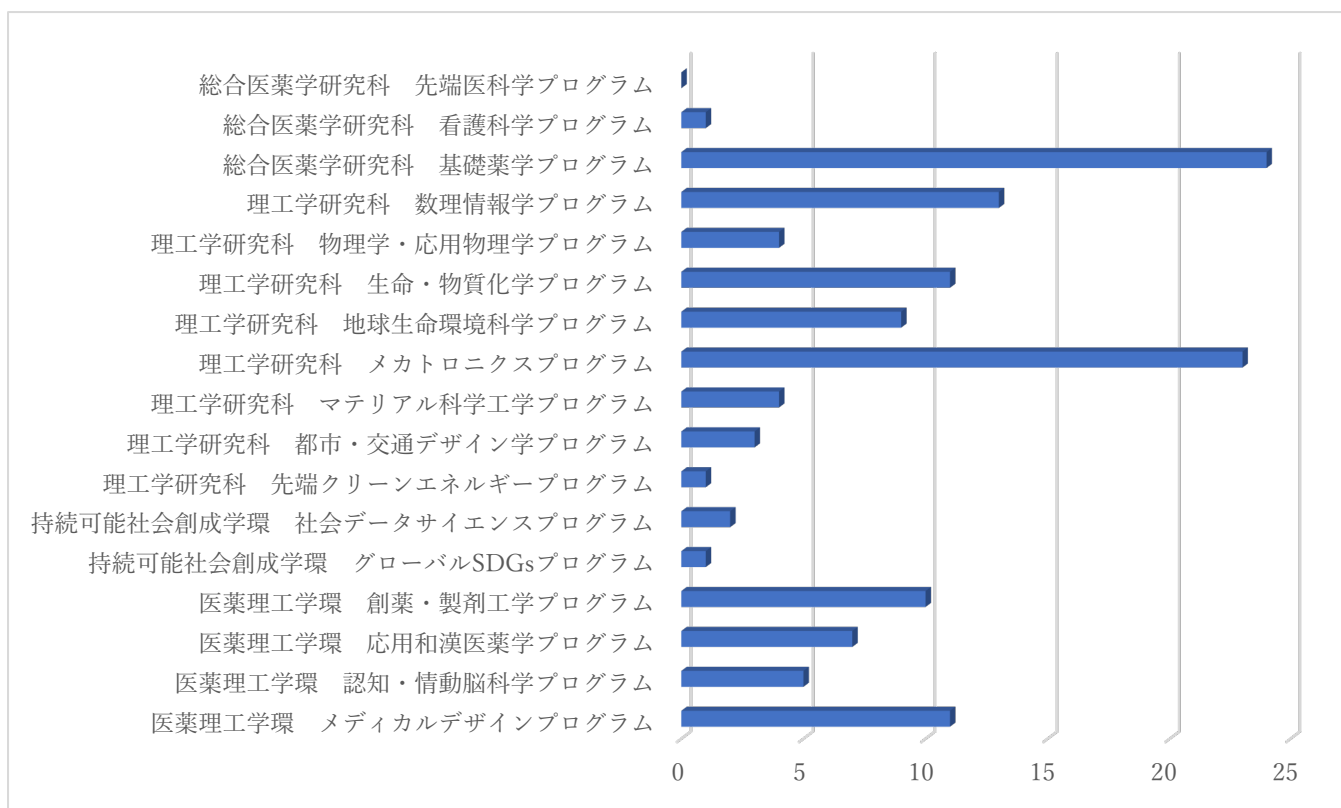
## (3) 回答数

129名

## (4) 調査期間

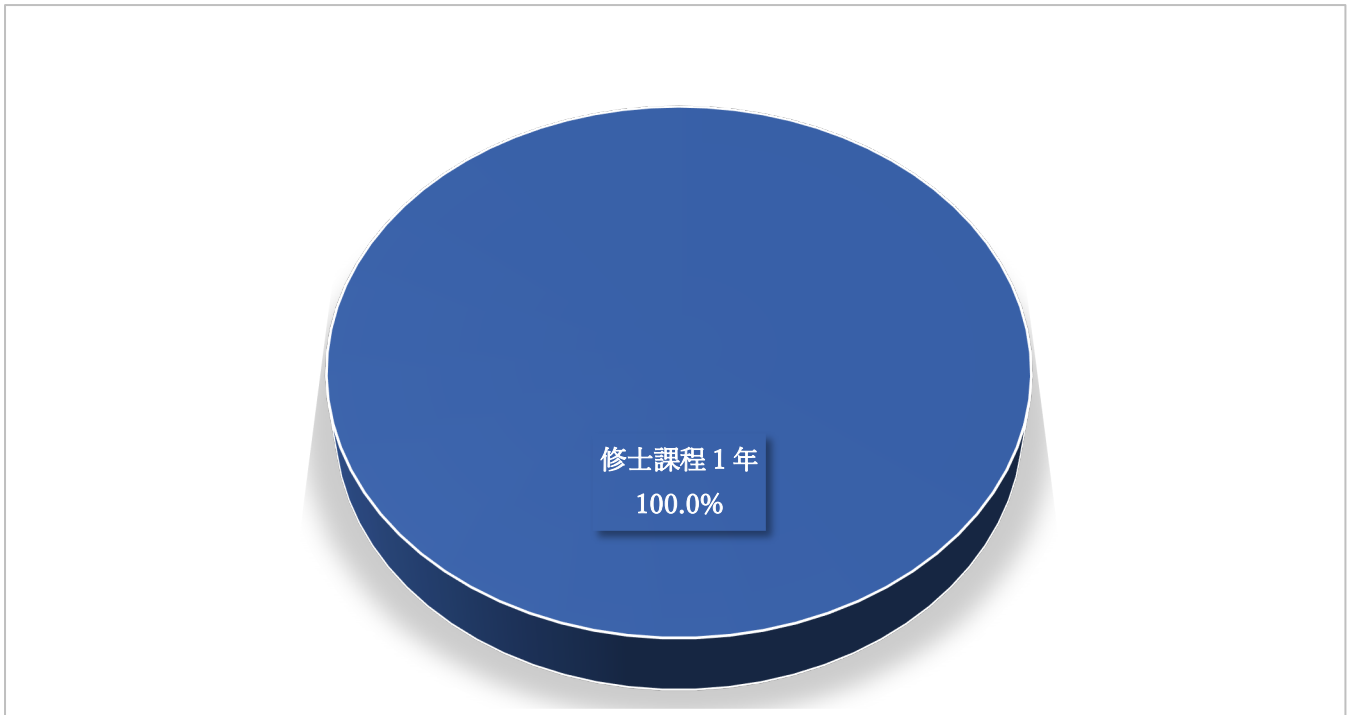
令和4年11月7日（火）～令和4年12月28日（水）

問1 あなたの所属を選択してください。



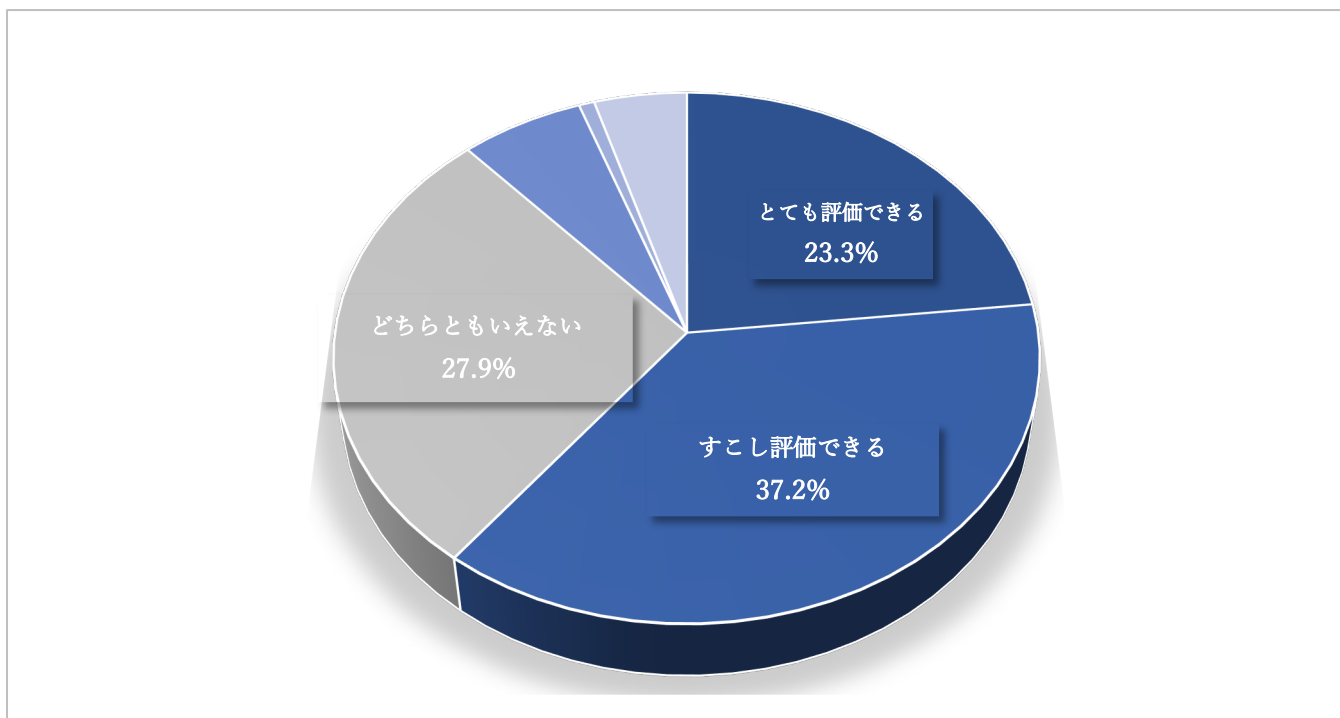
選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 先端医科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	1	0.8%
総合医薬学研究科 基礎薬学プログラム	24	18.6%
理工学研究科 数理情報学プログラム	13	10.1%
理工学研究科 物理学・応用物理学プログラム	4	3.1%
理工学研究科 生命・物質化学プログラム	11	8.5%
理工学研究科 地球生命環境科学プログラム	9	7.0%
理工学研究科 メカトロニクスプログラム	23	17.8%
理工学研究科 マテリアル科学工学プログラム	4	3.1%
理工学研究科 都市・交通デザイン学プログラム	3	2.3%
理工学研究科 先端クリーンエネルギープログラム	1	0.8%
持続可能社会創成学環 社会データサイエンスプログラム	2	1.6%
持続可能社会創成学環 グローバルSDGsプログラム	1	0.8%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	10	7.8%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	7	5.4%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	5	3.9%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	11	8.5%

問2 あなたの学年を選択してください。



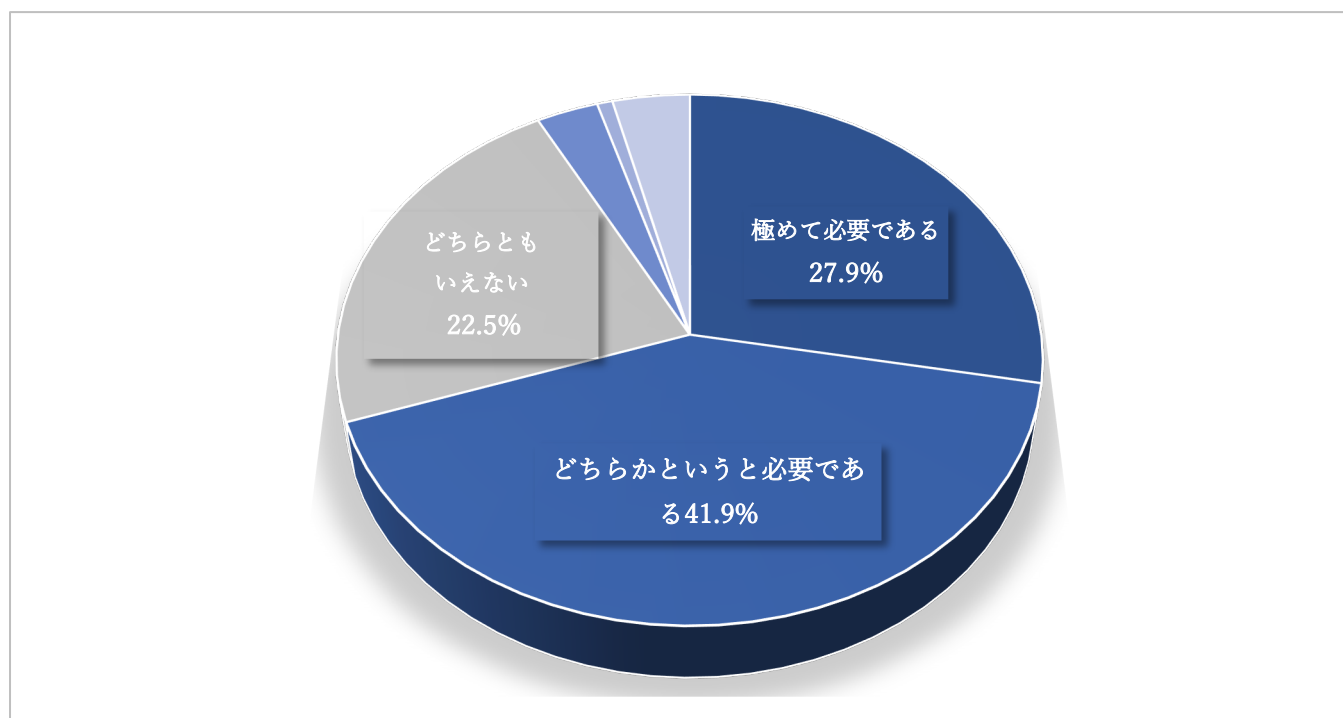
選択肢	回答数	割合
修士課程1年	129	65.8%

問3 大学院理工学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



選択肢	回答数	割合
とても評価できる	30	23.3%
すこし評価できる	48	37.2%
どちらともいえない	36	27.9%
あまり評価できない	8	6.2%
まったく評価できない	1	0.8%
分からない	6	4.7%

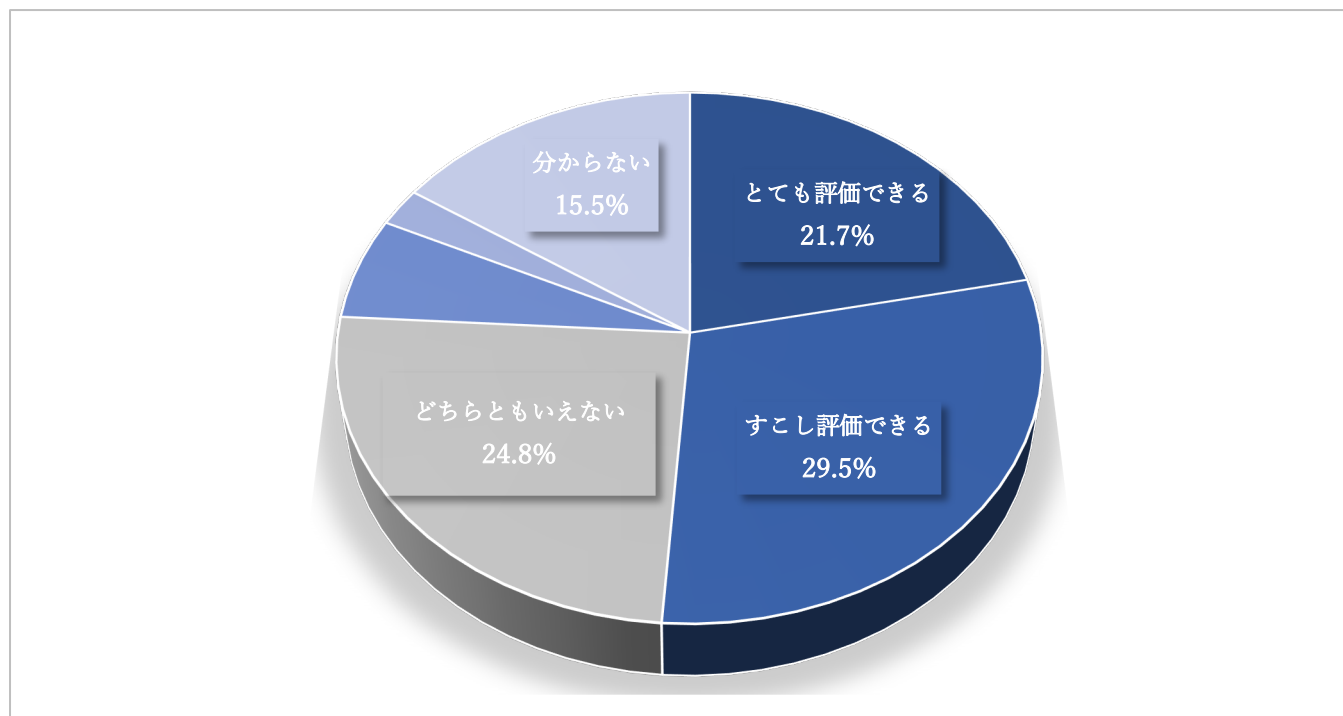
問4 大学院理工学研究科において、理学と工学の分野が連携し基礎・応用の技術革新を目指して、理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材を、これまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要と考えますか。



選択肢	回答数	割合
極めて必要である	36	27.9%
どちらかという必要である	54	41.9%
どちらともいえない	29	22.5%
あまり必要でない	4	3.1%
まったく必要でない	1	0.8%
分からない	5	3.9%

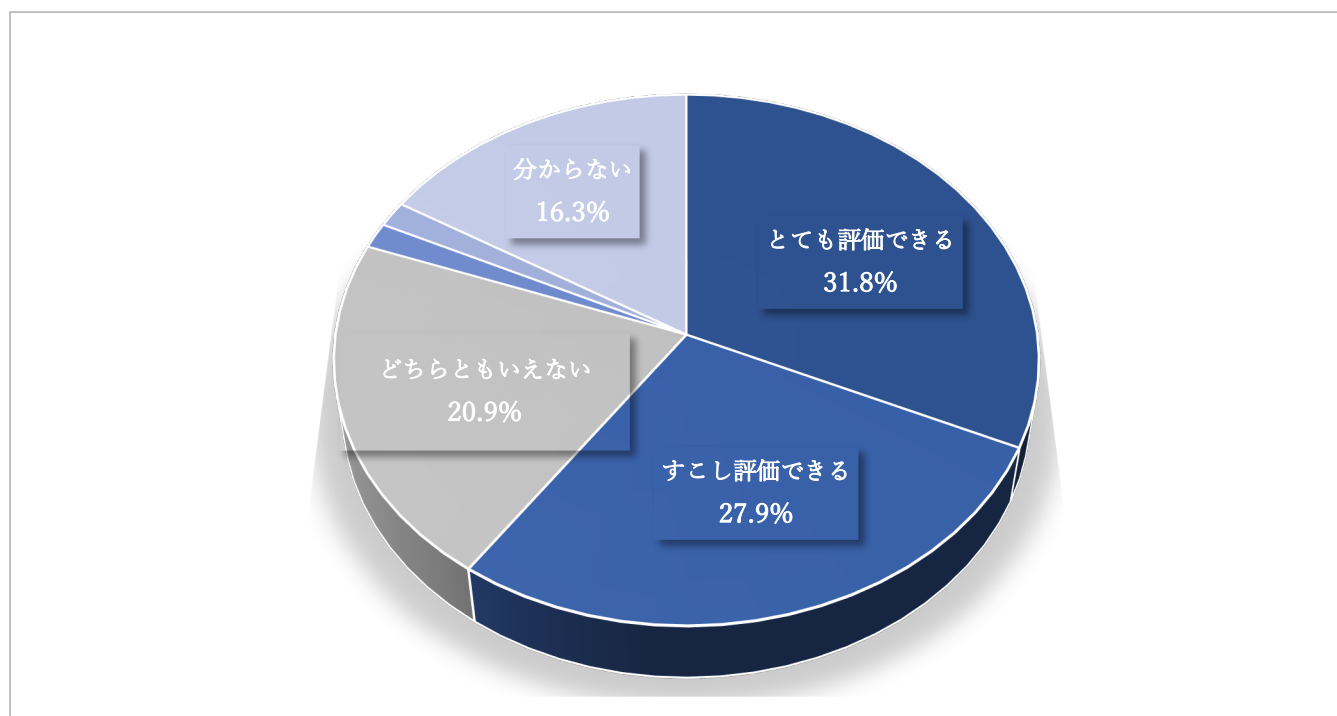


問5 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



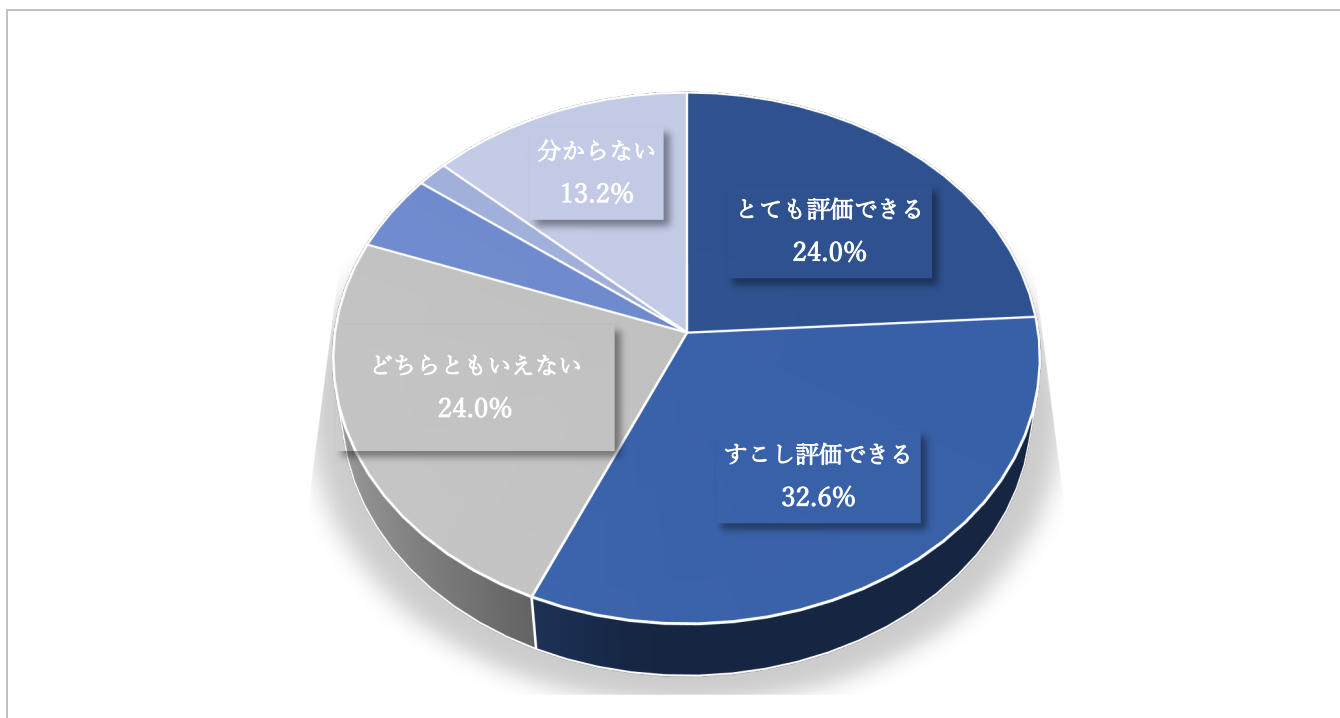
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	28	21.7%
すこし評価できる	38	29.5%
どちらともいえない	32	24.8%
あまり評価できない	8	6.2%
まったく評価できない	3	2.3%
分からない	20	15.5%

問6 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。



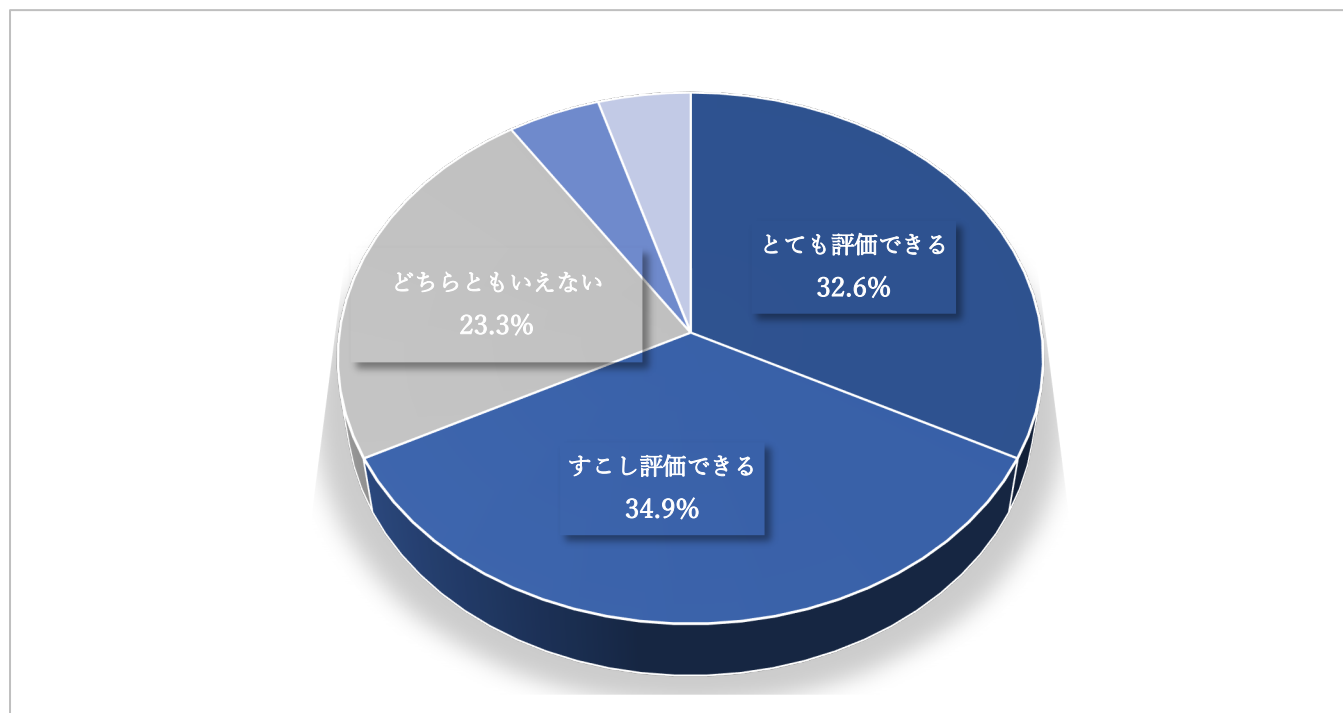
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	41	31.8%
すこし評価できる	36	27.9%
どちらともいえない	27	20.9%
あまり評価できない	2	1.6%
まったく評価できない	2	1.6%
分からない	21	16.3%

問7 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。



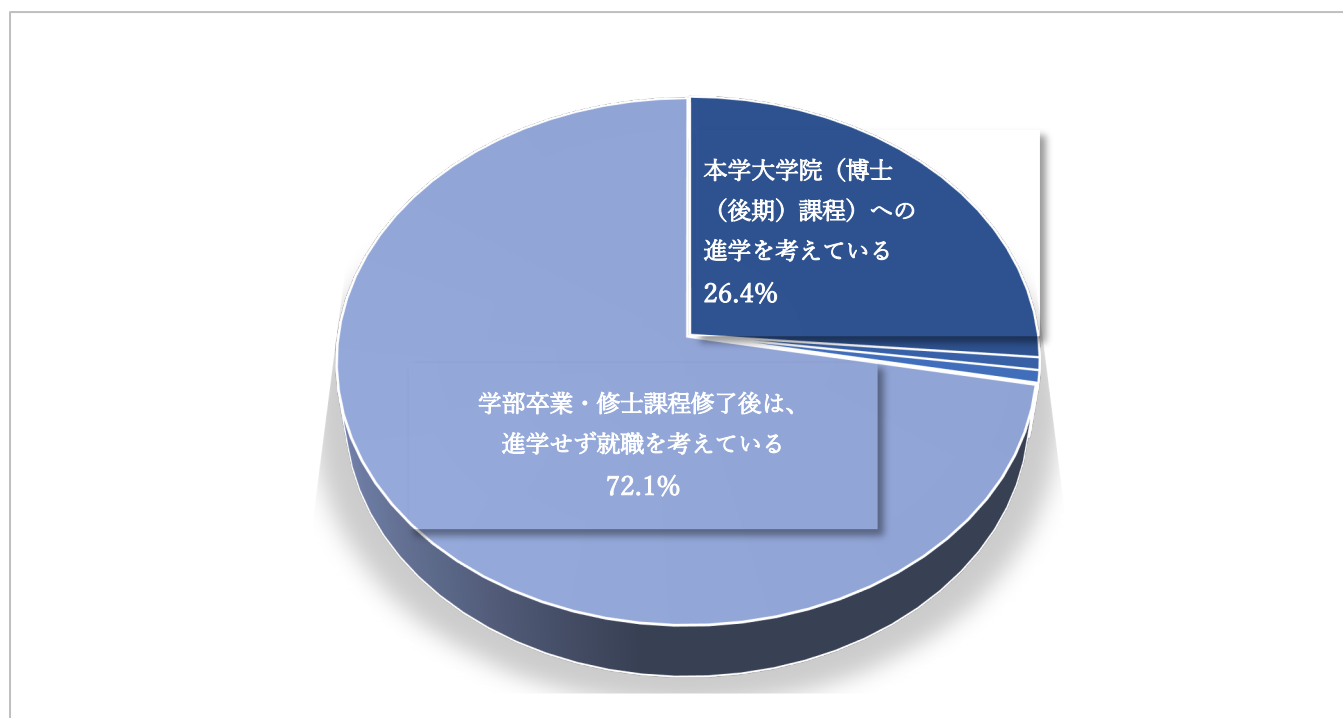
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	31	24.0%
すこし評価できる	42	32.6%
どちらともいえない	31	24.0%
あまり評価できない	6	4.7%
まったく評価できない	2	1.6%
分からない	17	13.2%

問8 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」、「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。



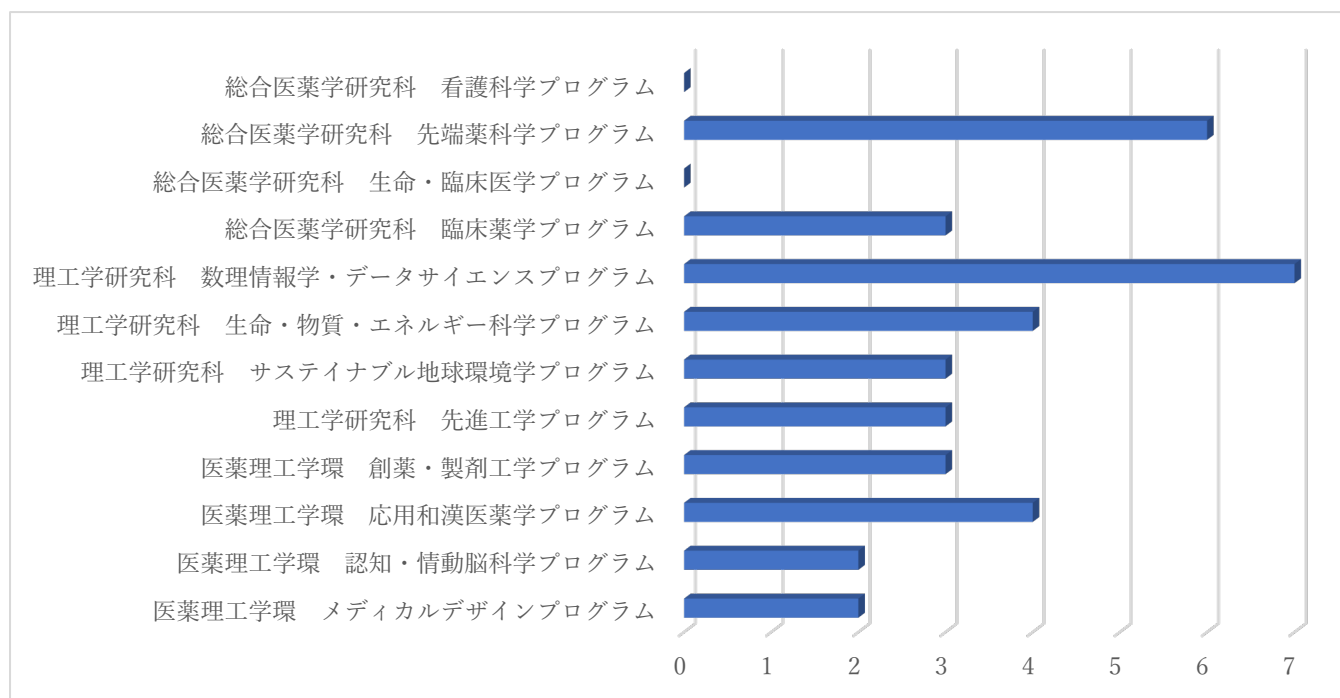
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	42	32.6%
すこし評価できる	45	34.9%
どちらともいえない	30	23.3%
あまり評価できない	6	4.7%
まったく評価できない	0	0.0%
分からない	6	4.7%

問9 あなたは、卒業・修了後（令和6年4月以降）に、大学院への進学を考えていますか。



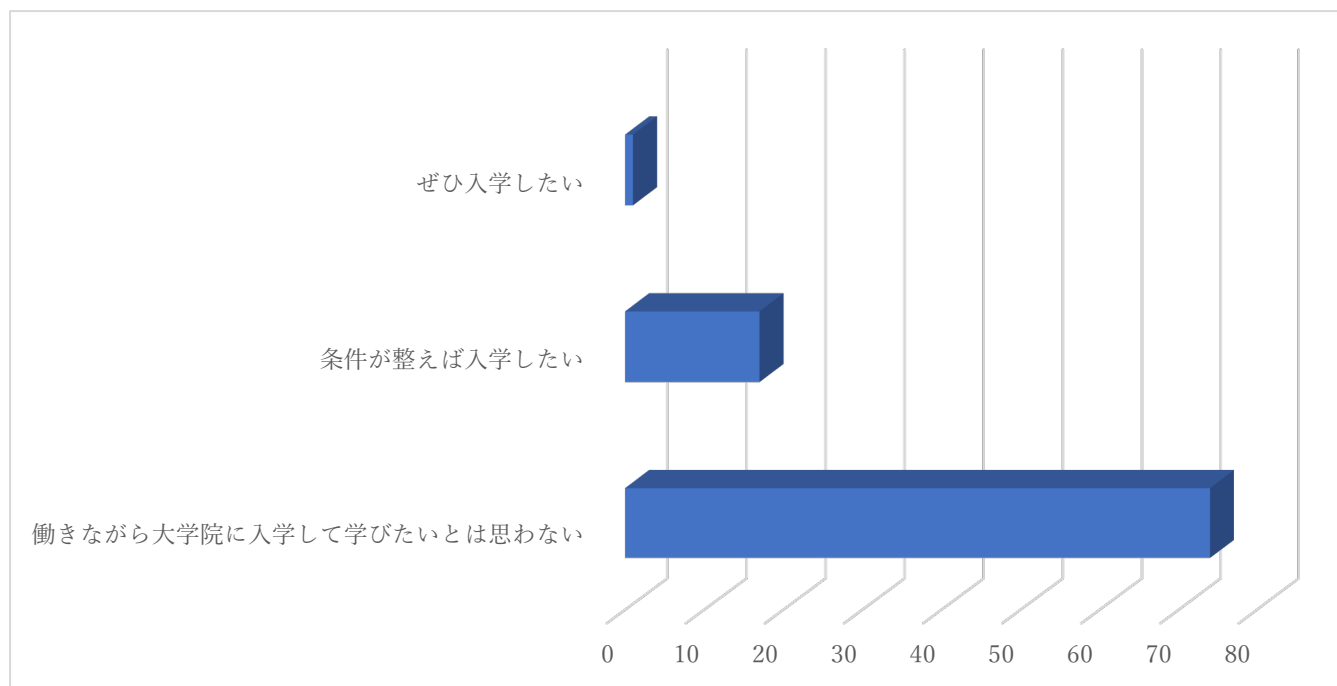
選択肢	回答数	割合
本学大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	34	26.4%
国内の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	1	0.8%
海外の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている	1	0.8%
学部卒業・修士課程修了後は、進学せず就職を考えている	93	72.1%
その他	0	0.0%

問10 9. で「本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムを1つ選択してください。※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	6	16.2%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	3	8.1%
理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム	7	18.9%
理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム	4	10.8%
理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム	3	8.1%
理工学研究科 先進工学プログラム	3	8.1%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	3	8.1%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	4	10.8%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	2	5.4%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	2	5.4%

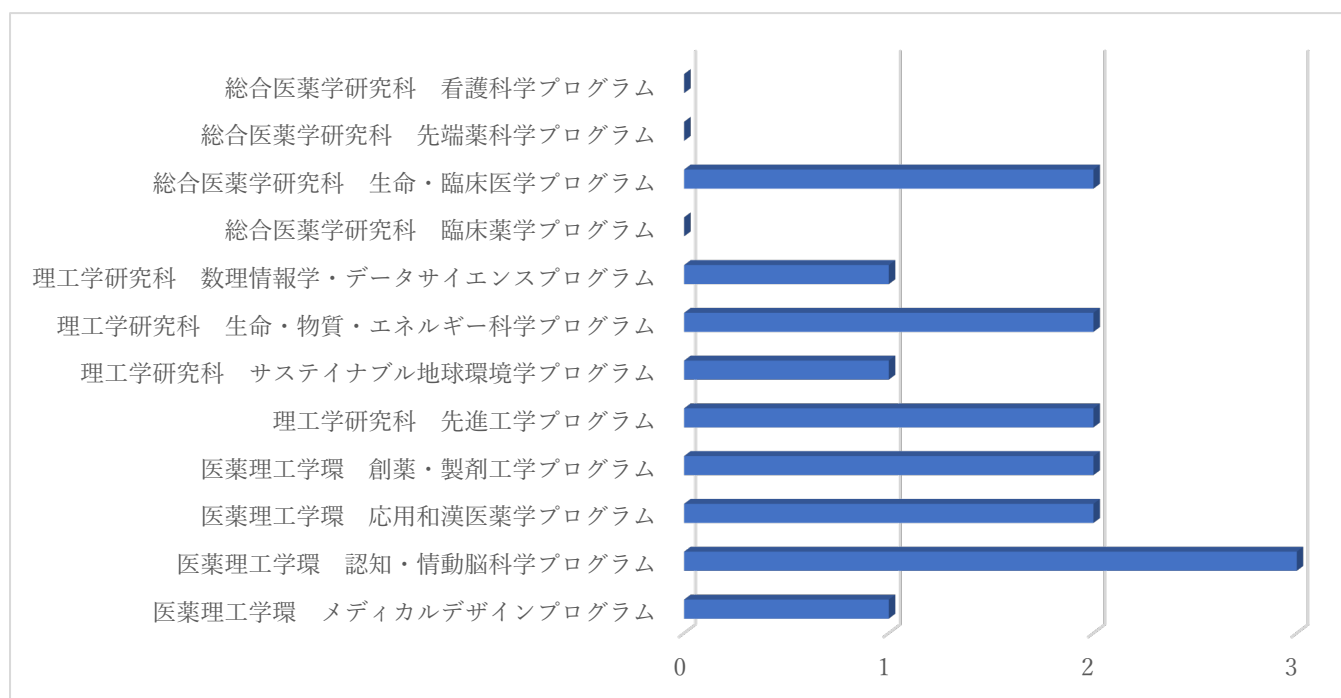
問 11 9. で「学部卒業・修士課程修了後は、進学せず就職」と回答した方についてお答えください。就職後、働きながらスキルアップ・キャリアアップを目的として富山大学博士課程に入学したいですか。



選択肢	回答数	割合
ぜひ入学したい	1	1.1%
条件が整えば入学したい	17	18.5%
働きながら大学院に入学して学びたいとは思わない	74	80.4%

問 12 10. で「ぜひ入学したい」「条件を整えば入学したい」と回答した方についてお答えください。就職後、ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムがありましたら回答してください。

※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	2	12.5%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	0	0.0%
理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム	1	6.3%
理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム	2	12.5%
理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム	1	6.3%
理工学研究科 先進工学プログラム	2	12.5%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	2	12.5%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	2	12.5%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	3	18.8%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	1	6.3%



# 富山大学大学院博士課程に関する 学生アンケート

このアンケートは、2024年4月に改組を予定している富山大学大学院（博士（後期）課程）に関するニーズを把握し、今後の改組準備に役立てるために実施するものです。調査結果は、本学の大学院教育の改革に活用していくものになりますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

※回答内容によって、皆さんに不利益が生じることはありません。

※回答数の状況把握のため、富山大学Microsoftアカウントにログインの上、回答してください。

いただいた回答は統計的に処理し、個別の情報が公表されることはありません。

\* 必須

\* このフォームでは名前の記録を行います、名前を入力してください。

1. あなたの所属を選択してください。\*

- 医学部医学科
- 薬学部薬学科
- 総合医薬学研究科 先端医科学プログラム
- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム
- 総合医薬学研究科 基礎薬学プログラム
- 理工学研究科 数理情報学プログラム
- 理工学研究科 物理学・応用物理学プログラム
- 理工学研究科 生命・物質化学プログラム
- 理工学研究科 地球生命環境科学プログラム
- 理工学研究科 メカトロニクスプログラム
- 理工学研究科 マテリアル科学工学プログラム
- 理工学研究科 都市・交通デザイン学プログラム
- 理工学研究科 先端クリーンエネルギープログラム
- 持続可能社会創成学環 社会データサイエンスプログラム
- 持続可能社会創成学環 グローバルSDGsプログラム
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム
- その他

2. あなたの学年を選択してください。\*

- 学部5年
- 修士課程1年
- その他

以降の設問は、別途添付している「富山大学大学院の改組構想」  
をご覧ください。

※別添の「富山大学大学院の改組構想」は、以下のURLからもご覧いただけます。

総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/sougouiyakugaku.pdf>

理工学研究科 理工学専攻

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/rikou.pdf>

医薬理工学環

<https://www.u-toyama.ac.jp/wp/wp-content/uploads/iyakurikou.pdf>

3. 大学院理工学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。 \*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

4. 大学院理工学研究科において、理学と工学の分野が連携し基礎・応用の技術革新を目指して、理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材を、これまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要と考えますか。 \*

- 極めて必要である
- どちらかという必要である
- どちらともいえない
- あまり必要でない
- まったく必要でない
- 分からない

5. 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。 \*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

6. 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としています。この取り組みは評価できますか。\*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

7. 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。\*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

8. 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」、「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。

\*

- とても評価できる
- すこし評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない
- 分からない

9. あなたは、卒業・修了後（令和6年4月以降）に、大学院への進学を考えていますか。\*

- 本学大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 国内の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 海外の他大学院（博士（後期）課程）への進学を考えている
- 学部卒業・修士課程修了後は、進学せず就職を考えている
- その他

10. 9. で「本学大学院へ進学」と回答した方についてお答えください。ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムを1つ選択してください。  
※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。

- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム
- 総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム
- 総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム
- 総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム
- 理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム
- 理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム
- 理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム
- 理工学研究科 先進工学プログラム
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム

11. 9. で「学部卒業・修士課程修了後は、進学せず就職」と回答した方についてお答えください。就職後、働きながらスキルアップ・キャリアアップを目的として富山大学博士課程に入学したいですか。

- ぜひ入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 働きながら大学院に入学して学びたいとは思わない



12. 10. で「ぜひ入学したい」「条件を整えば入学したい」と回答した方についてお答えください。就職後、ぜひ受験し、入学したいと考えるプログラムがありましたら回答してください。

※本設問の回答内容は入学に影響を及ぼしません。

- 総合医薬学研究科 看護科学プログラム
- 総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム
- 総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム
- 総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム
- 理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム
- 理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム
- 理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム
- 理工学研究科 先進工学プログラム
- 医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム
- 医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム
- 医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム
- 医薬理工学環 メディカルデザインプログラム

13. その他ご意見等があれば記載してください。

---

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

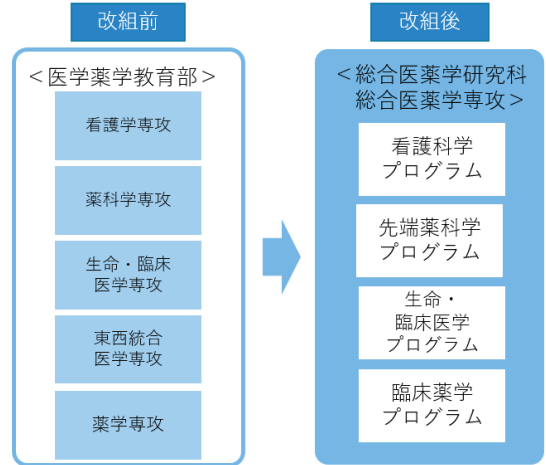
# 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻

2024年4月から、医学薬学教育部から総合医薬学研究科に改組する予定です

## 総合医薬学研究科の概要

医学薬学教育部（博士課程・博士後期課程）は、5専攻（看護学専攻、薬科学専攻、生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻、薬学専攻）を再編し、1専攻4プログラムからなる総合医薬学研究科に改組します。

1専攻4プログラムへの再編により、医療に関する実践的な多職種連携・協働とイノベーションにつながる包括的な医療的素養を身に付けさせる環境を整備し、医薬融合を更に高いレベルにて実践し、基礎医薬学と臨床医薬学の環流の飛躍的に推進することを見込んでいます。高度に専門化した医療現場において活躍できる多職種連携と相互理解、包括的かつ学際的な対応能力を持つ高度な医師、薬剤師、看護職、医薬学研究者などを育成することが可能となります。



養成する人材像 ※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

看護科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（看護学）	募集人員：3人
<p>【養成する人材像】</p> <p>「基礎看護科学分野」「臨床・生体機能看護科学分野」「地域ケアシステム看護科学分野」の3分野を設け、看護科学における幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を行う。看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>看護職(保健師・助産師・看護師) 指導者(基幹・地域病院、保健所等行政機関) 看護教育・研究者(大学・短大等看護職養成機関)</p>	
先端薬科学プログラム（博士後期課程）	学位：博士（薬科学）	募集人員：6人
<p>【養成する人材像】</p> <p>薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性ととともに、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>企業(製薬企業創薬研究者、化学メーカー研究者) 大学教員(薬学研究者、生命科学研究者) 治験関連(臨床開発研究者)</p>	
生命・臨床医学プログラム（博士課程）	学位：博士（医学）	募集人員：30人
<p>【養成する人材像】</p> <p>疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、東洋医学と西洋医学の両方の知識を備え世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>医師(病院、行政機関) 教員・研究者(大学、研究所等) 企業(創薬開発) 治験関連</p>	
臨床薬学プログラム（博士課程）	学位：博士（薬学）	募集人員：4人
<p>【養成する人材像】</p> <p>臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性ととともに、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>薬剤師(大学病院薬学部、認定薬局、行政機関) 大学教員・研究者(大学、研究所等) 企業(医療研究開発、臨床研究実施)</p>	

## カリキュラムの特徴

設置構想中  
予定であり、今後変更  
する場合があります。

### 医学・薬学・看護学を統合した教育課程

本研究科は、医学部と薬学部、附属病院が同じキャンパスにある「地の利」を生かした医学・薬学・看護学を総合した特色ある教育課程とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成します。



### 研究科共通科目の開設

大学院博士課程レベルの研究科共通科目として「**医薬学プロフェッショナル研究論**」を開設します。本科目により医学・薬学・看護学領域のプロの研究者となるための必須のスキルを修得するとともに、臨床と基礎を横断した総合的な医療人材を育成します。医療の現場における上位職では、特定分野だけではなく様々な分野を俯瞰して理解した上でマネジメントを行うことが求められるため、高度な専門レベルでの複数分野を理解し、的確なリーダーシップを発揮できる能力を育成します。



### 大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

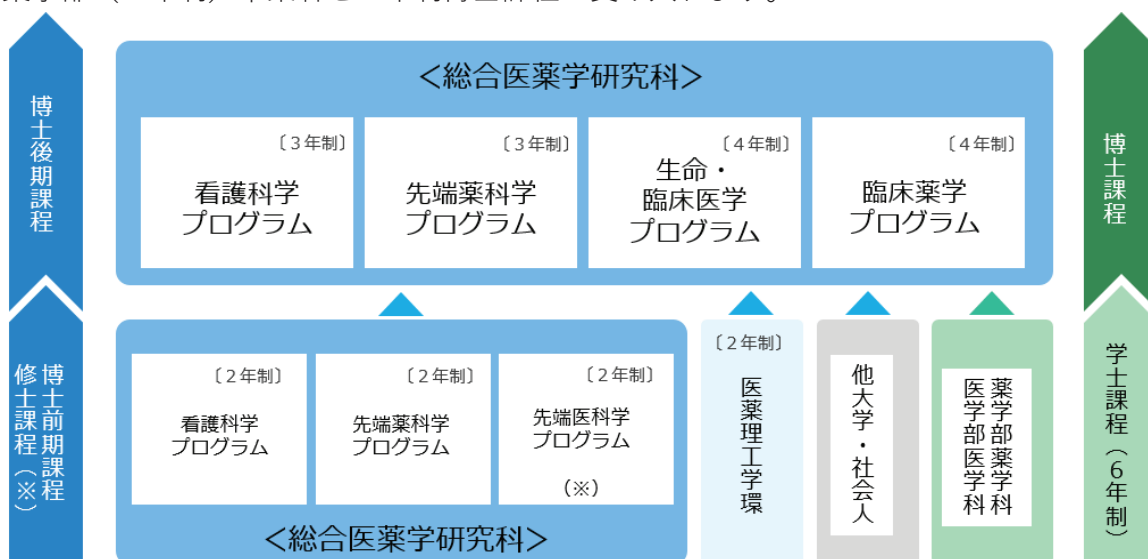
### 社会人のオンライン教育

社会人大学院生の学修機会の確保として、オンデマンド教育やオンライン教育を充実させます。



## 学部・修士課程との接続

総合医薬学研究科（博士前期課程・修士課程）の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。また、本学の医薬理工系大学院修士課程である「医薬理工学環」修了生も一部受け入れ、他分野指導体制を実施します。さらに、医学部及び薬学部（6年制）卒業生を4年制博士課程に受け入れます。



### 入学料・授業料（2022年11月現在）

入学料	授業料（年額）
282,000円	535,800円

### 設置場所

富山大学杉谷キャンパス  
（富山県富山市杉谷2630）

（富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく）

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

# 理工学研究科 理工学専攻 (博士後期課程)

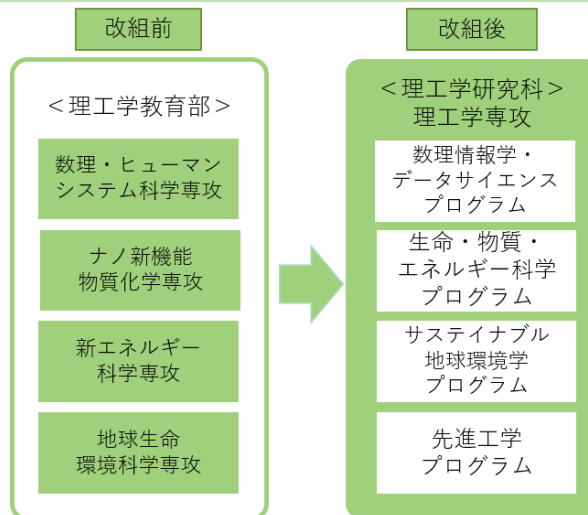
2024年4月に、理工学教育部から理工学研究科へ改組する予定です

## 理工学研究科の概要

理工学研究科は、理工学教育部（博士課程）の4専攻（数理・ヒューマンシステム科学専攻、ナノ新機能物質化学専攻、新エネルギー科学専攻、地球生命環境科学専攻）を、1専攻4プログラムに再編します。

近年、理工系人材には、イノベーションの創出のためのより高度かつ広範な能力が求められており、自身の専門分野だけでなく、幅広い分野横断的な知識と視野を持ち、**産業界においてもリーダーとして社会的に説明責任を果たしつつ技術革新を牽引できる理工系高度職業人や、基礎・応用において革新をもたらすような研究者**の養成が必要となっています。

本研究科では、上記のような人材を輩出するために、理学・工学の学問領域の相補的・相乗的な連携を強化し、より高度な専門教育を行っていきます。



## 養成する人材像

<p>数理情報学・データサイエンスプログラム</p> <p>【養成する人材像】 数学、情報学およびデータサイエンスに必要なプログラミングやコンピューター、AIについての素養を主に必要とする数理情報学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（数理情報学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信業</li> <li>公務(数理情報系)</li> <li>大学、公的研究機関の数理情報分野の研究者</li> </ul>
<p>生命・物質・エネルギー科学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 理学と工学の分野にまたがって、生命、物質、エネルギーの各分野について、物理化学的観点から理解し、イノベーションや問題解決に当たれる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（理工学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製造業（化学工業（有機化学工業、無機化学工業、医薬品製造業）、輸送機械器具製造業（自動車・同附属品製造業））、電気・ガス</li> <li>公務（理工系技術者・研究者）</li> <li>大学、公的研究機関の理工系研究者</li> </ul>
<p>サステナブル地球環境学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 地球科学、生物科学、環境科学の主たる学問分野を広く修得し、持続可能社会に貢献する高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（理学）</p> <p>募集人員：5人</p> <p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製造業（食料品製造業、化学工業（環境安全に関わる管理業務））、農業</li> <li>公務（理工系技術者・研究者）</li> <li>大学、公的研究機関の理工系研究者</li> </ul>
<p>先進工学プログラム</p> <p>【養成する人材像】 機械工学、エレクトロニクス、ロボティクス、材料科学、社会基盤工学の工学分野の専門能力を身に付け、データを活用して、イノベーションや問題解決に当たれる高度専門職業人および研究者を養成する。</p>	<p>学位：博士（工学）</p> <p>募集人員：3人</p> <p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製造業（鉄鋼業、非鉄金属製造業、電子部品、機械器具製造業（電子部品、電気機械、情報通信機械など））、建設業、運輸業・公務（理工系技術者・研究者）</li> <li>大学、公的研究機関の理工系研究者</li> </ul>

※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

設置構想中  
予定であり、今後変更  
する場合があります。

## カリキュラムの特徴

### 1専攻4学位プログラム

本研究科は、博士前期課程において、理学・工学の学問領域の相補的・相乗的な連携を強化するとともに、学問領域の枠を超えた、新しい学問領域に対応した学位プログラムを編成しています。博士後期課程においては、博士前期課程からさらにプログラムを融合するとともに、**プログラムの枠を超えた研究指導**を行い、**専門の枠にとらわれない教育や研究**を推進します。

### 異分野間の複数指導体制

理工学の各分野の枠を超えて幅広い分野横断的な知識と視野を持った人材を養成するために、プログラムの枠を超えた異分野間の連携・融合を重視して、複数指導教員による研究指導を行います。主指導教員による指導に加えて、異分野の副指導教員からも指導を受けることにより、幅広い視野からの教育・研究指導を行います。



### 大学院共通科目、研究科共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士（後期）課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士（後期）課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

また、専門的能力を企業や教育現場で活用する能力を養うための科目「プレFD」、  
「長期インターンシップ」を、理工学研究科博士後期課程の研究科共通科目として開設します。

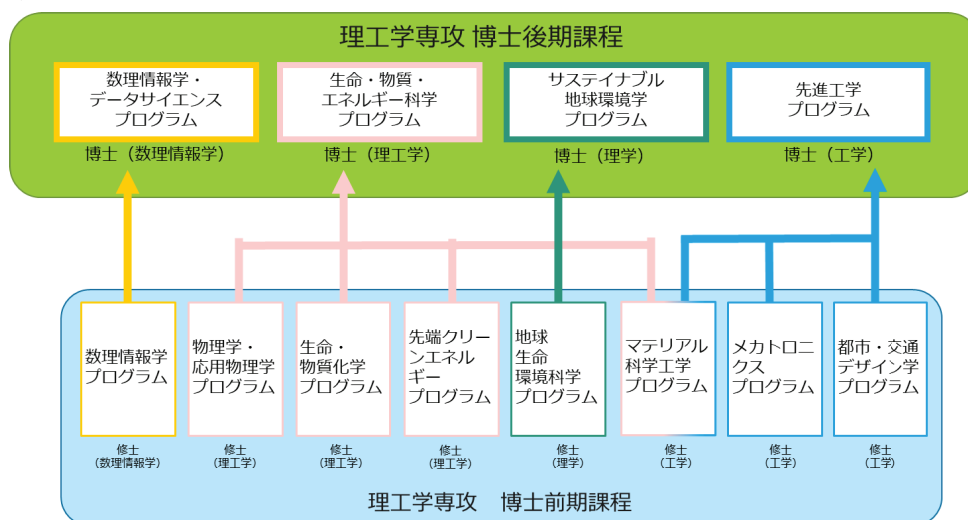
### 専門の高度な知識や技術を身に付けるプログラム専門科目

博士後期課程では専門の高度な知識や技術を身に付けるプログラム専門科目を開講します。プログラム専門科目では、各分野の最先端の研究に関する専門知識と実験技術を身に付けるとともに、専門知識や実験技術を統合・応用することで研究課題を解決する能力を育成することができます。



## 博士前期課程との接続

2022年4月に設置した本学理工学研究科博士前期課程の8プログラムの修了生を博士後期課程の4プログラムに受け入れ、博士前期・後期課程で一貫した教育内容を提供する5年一貫型教育体制を構築し、博士前期課程よりもさらに分野融合的で高度な教育を実施します。また、本学持続可能社会創成学環からの関連の深いプログラム（数理情報学・データサイエンスP, サステイナブル地球環境学P）への進学を可能としています。



## 入学料・授業料（2022年11月現在）

入学料	授業料
282,000円	535,800円

## 設置場所

富山大学五福キャンパス  
（富山県富山市五福3190）

（富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく）

富山大学大学院

【2024年4月開設予定】

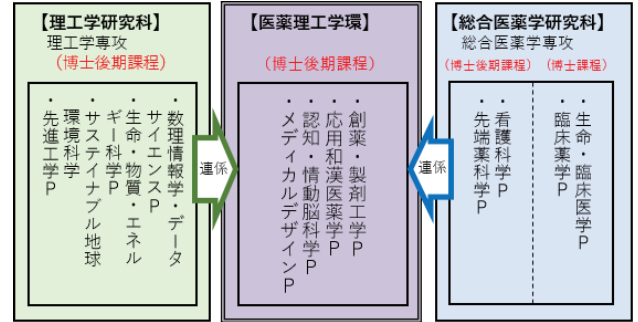
# 医薬理工学環（博士後期課程）

2024年4月に、総合医薬学研究科と理工学研究科の係により医薬理工学環を設置します

## 医薬理工学環の概要





医薬理工学環は、総合医薬学研究科・理工学研究科の係により設置します。

本学環は、**医薬理工を横断した教員体制**を基盤とし、富山県における産業等の強み・特徴・課題である、**医薬品開発、和漢医薬学、脳科学、医療機器・福祉機器開発**など、創薬・ヘルスケア分野への貢献という、プログラム毎に出口を明確化した教育課程を構築し、各分野の高度人材の育成を目指します。



医学、薬学、理学及び工学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度専門職業人や教育研究者としての人材を育成します。

## 養成する人材像

創薬・製剤工学プログラム	学位：博士（薬科学） 募集人員：3人
<p>【養成する人材像】</p> <p>創薬・製剤工学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、医薬品開発・医薬品工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業（製薬企業創薬、製剤開発、DDS研究開発者）</li> <li>大学教員・研究者</li> </ul> 
応用和漢医薬学プログラム	学位：博士（薬科学） 募集人員：3人
<p>【養成する人材像】</p> <p>応用和漢医薬学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、和漢医薬学・薬科学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生薬を扱う製薬企業等の研究者等</li> <li>大学教員・研究者</li> <li>薬事審査官等の省庁機関職員</li> </ul> 
認知・情動脳科学プログラム	学位：博士（神経科学） 募集人員：4人
<p>【養成する人材像】</p> <p>認知・情動脳科学プログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、脳科学・神経科学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脳神経科学研究分野人材（国内外教育研究機関）</li> <li>医薬研究開発人材（創薬、臨床治験、企業等）</li> </ul> 
メディカルデザインプログラム	学位：博士（医工学） 募集人員：4人
<p>【養成する人材像】</p> <p>メディカルデザインプログラム博士前期課程と密接に連携し、より高度な教育・研究を推進し、医用・福祉工学の幅広い分野で貢献できる高度専門職業人と研究者を養成する。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスケア機器メーカーで機器を開発するエンジニア</li> <li>ヘルスケアサービス企業でサービスやビジネスモデルを開発するプランナー</li> <li>医用・福祉工学の研究・教育者</li> </ul> 

※募集人員は、現時点の予定であり、今後変更になる可能性があります。

設置構想中  
予定であり、今後変更  
する場合があります。

## カリキュラムの特徴

### 横断的な学位論文研究の指導

学系を横断した3名以上の複数指導教員による研究指導体制を構築し、高い専門性ととも幅広い視野を備え、専門分野の枠にとられない独創性・創造性を持った人材を養成します。

### 分野横断的教育体制の構築

各プログラムの研究分野における先端研究の、高度かつ俯瞰的な企画・遂行能力を養成するため、以下の科目を開講します。

- ・プログラム別演習科目：学系を横断した複数指導教員により、学位論文研究に関わる演習を行う
- ・プログラム別実習科目：所属プログラムの諸課題を俯瞰的に解決する実験技術を、学系を超えた異分野での学内留学で養成する
- ・プログラム別講義科目：所属プログラムの先端課題を提示・解決できる専門知識を、学系を超えた講義体制で養成する



### 大学院共通科目の設定

研究専門分野が異なる者への説明能力や研究を設計・デザインする能力を向上させるため、博士(後期)課程学生・担当教員が集まり、研究計画・中間報告等を行う「学際融合発表演習」を、大学院博士(後期)課程学生対象の大学院共通科目として開設します。

### 学環共通科目の設定

異分野と連携・融合する能力や、学術研究の成果を社会実装に連結する能力を養うため、以下のような学環共通科目を設定します。

- ・先端研究企画演習(リサーチ・プロポーザル)：学生自身の専門とは異なる分野の研究を企画立案することで、新たな発想の創出やチームリーダーとしての資質向上を目指す
- ・研究インターンシップ(長期インターンによる企業・研究機関での開発・研究の実習を通して、大学院と社会の連結を実践)
- ・国際連携実習(学位論文研究に関連した海外研究機関での共同研究を実施)

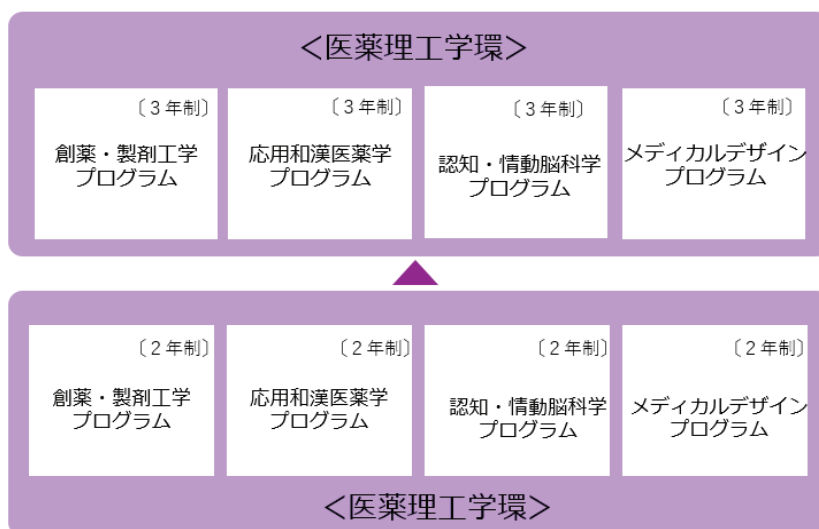
## 本学博士前期課程との接続

令和4年4月に修士課程「医薬理工学環」を設置しており、本組織の各プログラム修了生を博士後期課程に受け入れ、5年一貫型教育体制を構築します。(令和6年4月の博士後期課程設置時に、修士課程を博士前期課程に改めます。)

その他、本学の医薬理工系大学院である、「総合医薬学研究科」又は「理工学研究科」修了生及び他大学修了者、社会人も受け入れます。

博士後期課程

博士前期課程



### 入学科・授業料(2022年11月現在)

入学科	授業料
282,000円	535,800円

### 設置場所

富山大学五福キャンパス  
(富山県富山市五福3190)  
富山大学杉谷キャンパス  
(富山県富山市杉谷2630)

(富山大学における授業料その他の費用に関する規則に基づく)

## 富山大学大学院博士課程（主に理系大学院）に関するアンケート結果

## ■ 調査の概要

## (1) 調査の対象

過去に採用実績のある企業等 513 社・機関

## (2) 調査の方法

上記対象企業等に、ウェブ上で説明資料の提示を行った上で、アンケートへの回答を依頼した。  
またアンケートはウェブ上で実施した。

## (3) 回答数

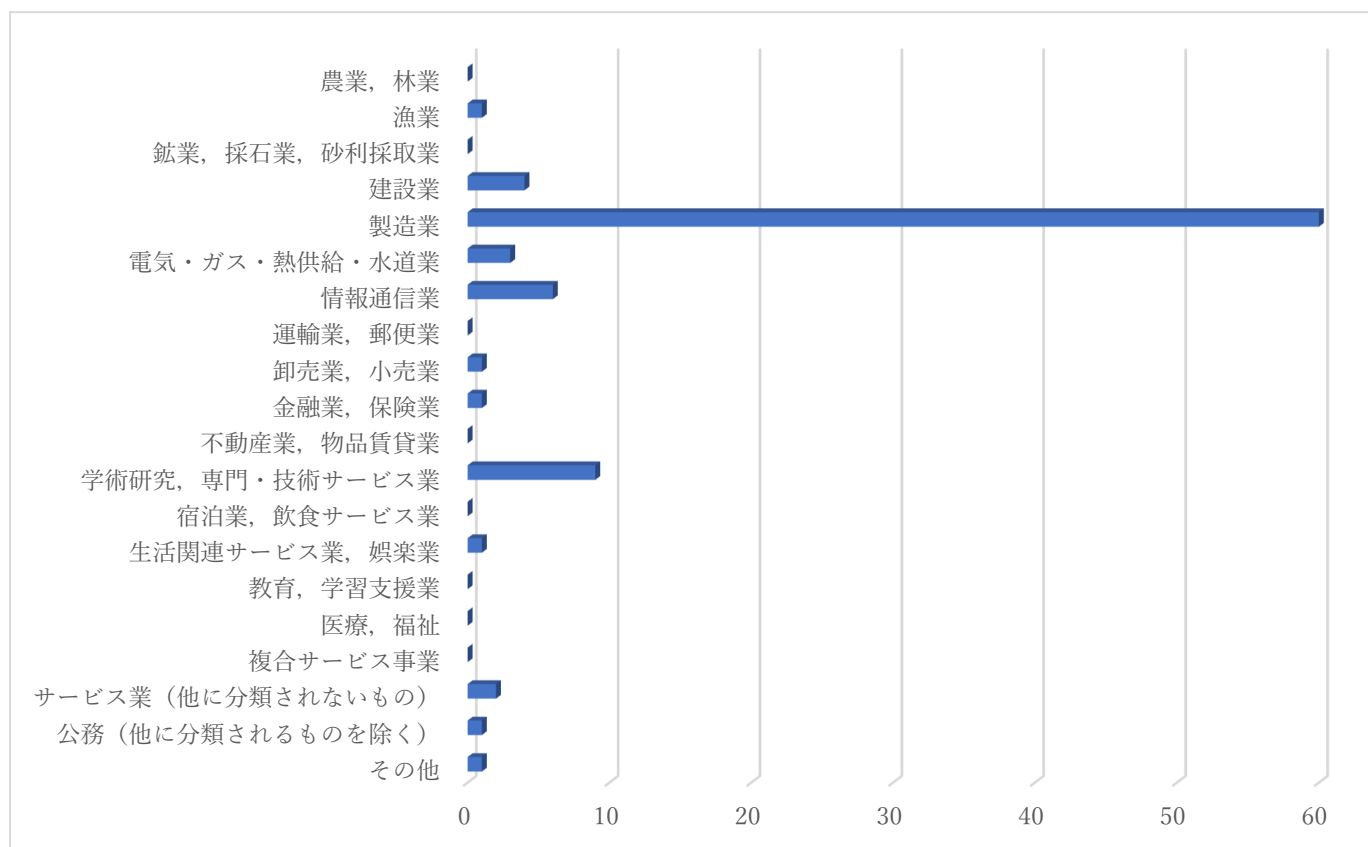
90 社

## (4) 調査期間

令和4年11月7日（月）～令和5年1月20日（金）

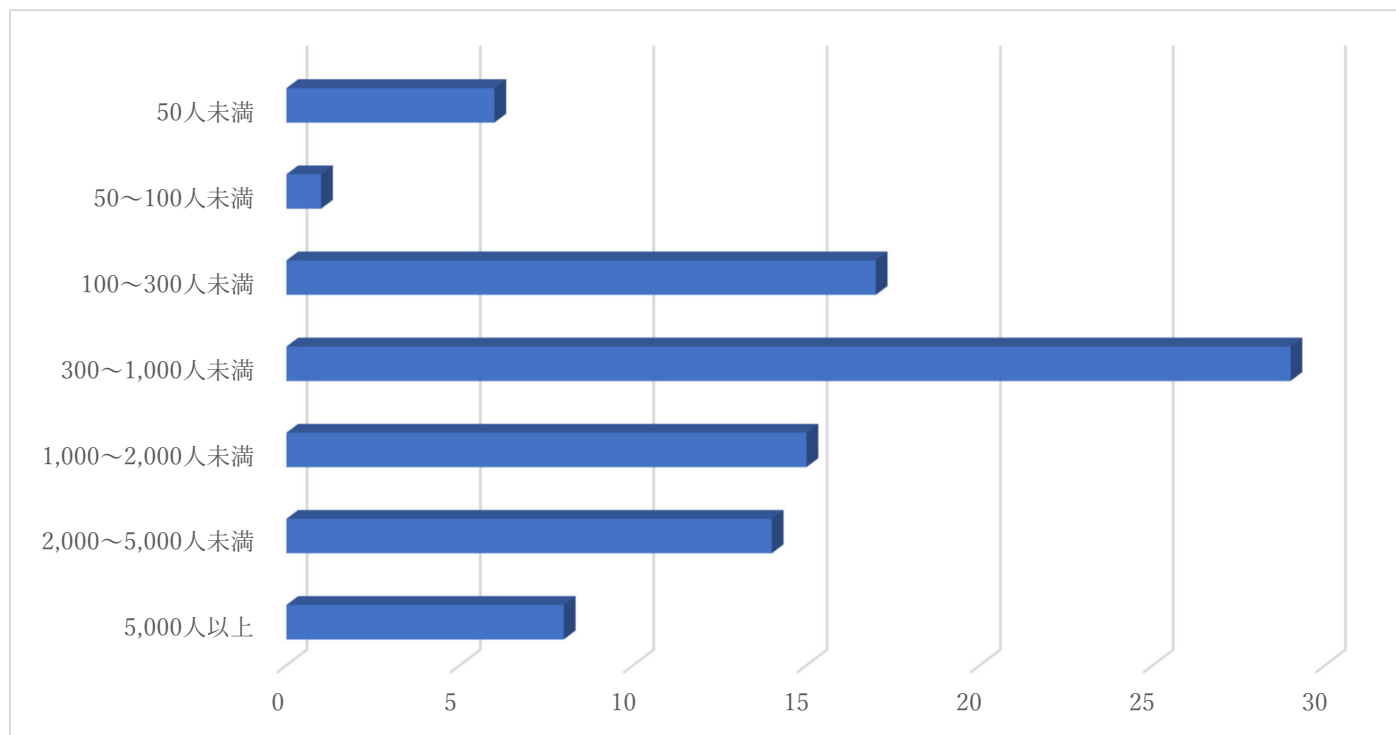


問1 貴社の属する業種について、次の中から該当するものを選んでください（主たるものをひとつ）。※以下の分類は、日本標準産業分類（総務省）による分類です。



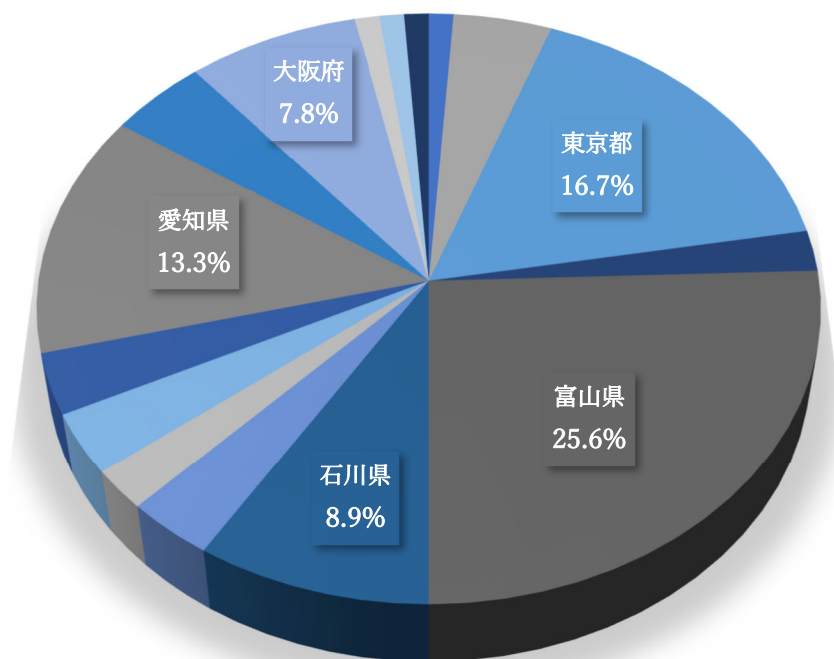
選択肢	回答数	割合
農業、林業	0	0.0%
漁業	1	1.1%
鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0%
建設業	4	4.4%
製造業	60	66.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	3	3.3%
情報通信業	6	6.7%
運輸業、郵便業	0	0.0%
卸売業、小売業	1	1.1%
金融業、保険業	1	1.1%
不動産業、物品賃貸業	0	0.0%
学術研究、専門・技術サービス業	9	10.0%
宿泊業、飲食サービス業	0	0.0%
生活関連サービス業、娯楽業	1	1.1%
教育、学習支援業	0	0.0%
医療、福祉	0	0.0%
複合サービス事業	0	0.0%
サービス業（他に分類されないもの）	2	2.2%
公務（他に分類されるものを除く）	1	1.1%
その他	1	1.1%

問2 貴社の従業員数について、該当するものを選んでください。



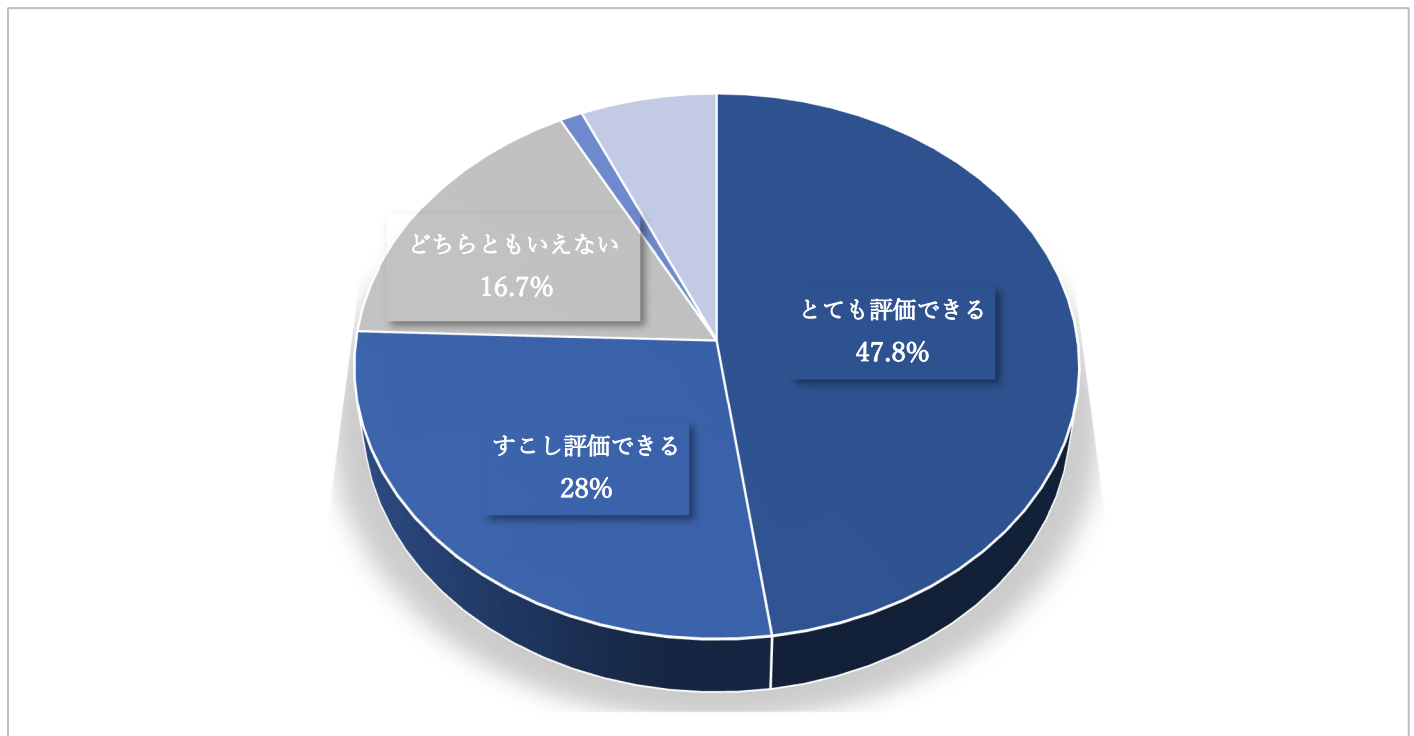
選択肢	回答数	割合
50人未満	6	6.7%
50~100人未満	1	1.1%
100~300人未満	17	18.9%
300~1,000人未満	29	32.2%
1,000~2,000人未満	15	16.7%
2,000~5,000人未満	14	15.6%
5,000人以上	8	8.9%

問3 貴社の所在地を都道府県で記載してください。貴社が事業所ごとの採用を行っており、事業所において本調査に回答される場合は、当該事業所の所在地を都道府県で記載してください。



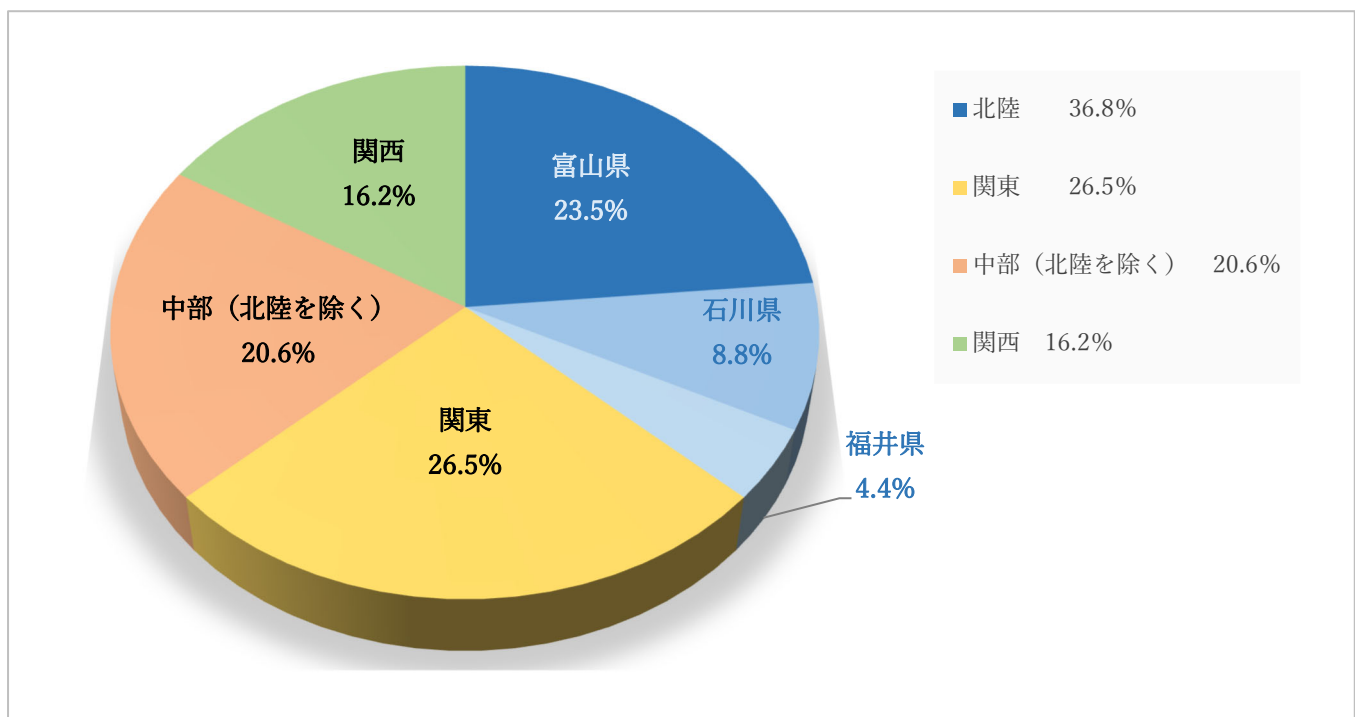
自由記述	回答数	割合
茨城県	1	1.1%
埼玉県	4	4.4%
東京都	15	16.7%
神奈川県	2	2.2%
富山県	23	25.6%
石川県	8	8.9%
福井県	3	3.3%
長野県	2	2.2%
岐阜県	3	3.3%
静岡県	3	3.3%
愛知県	12	13.3%
京都府	4	4.4%
大阪府	7	7.8%
兵庫県	1	1.1%
和歌山県	1	1.1%
熊本県	1	1.1%

問4 大学院理工学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。

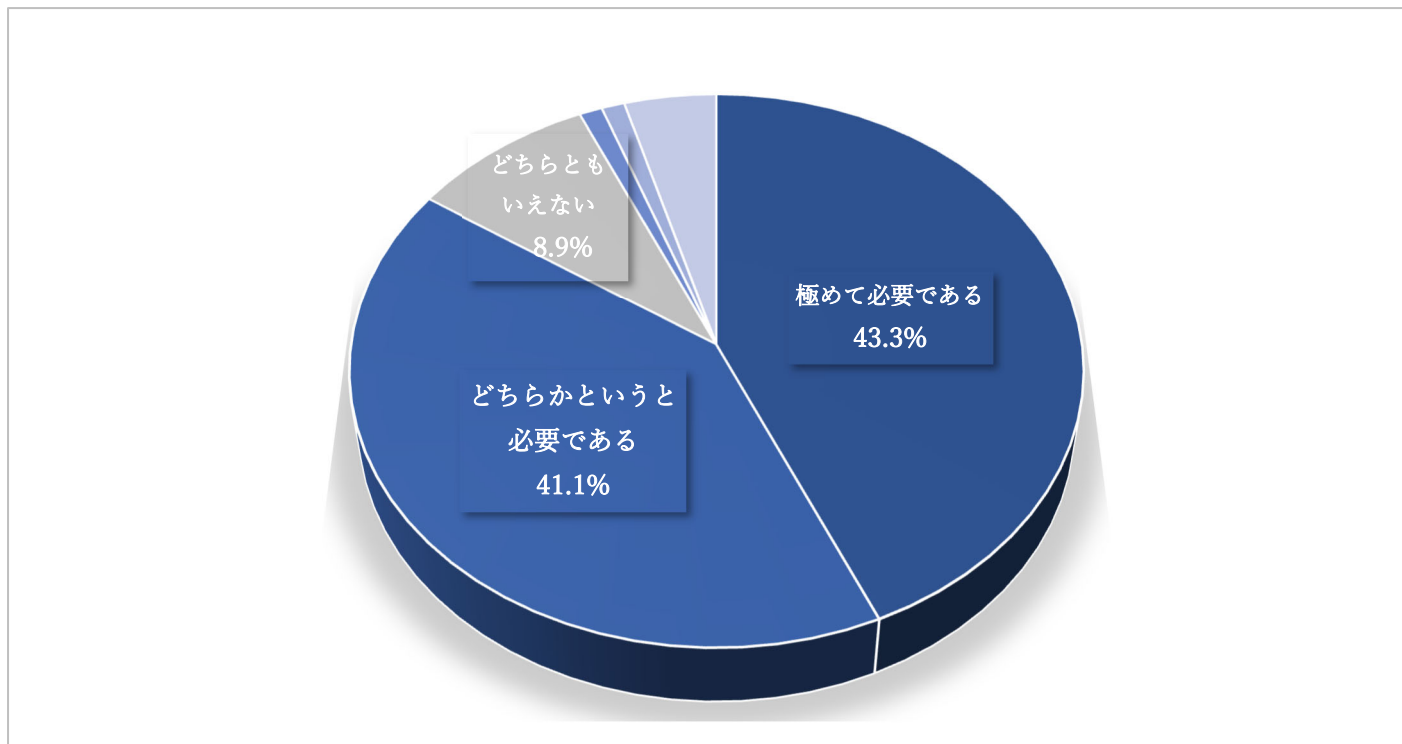


選択肢	回答数	割合
とても評価できる	43	47.8%
すこし評価できる	25	27.8%
どちらともいえない	15	16.7%
あまり評価できない	1	1.1%
まったく評価できない	0	0.0%
分からない	6	6.7%

「とても評価できる」又は「少し評価できる」と回答した企業のエリア別内訳

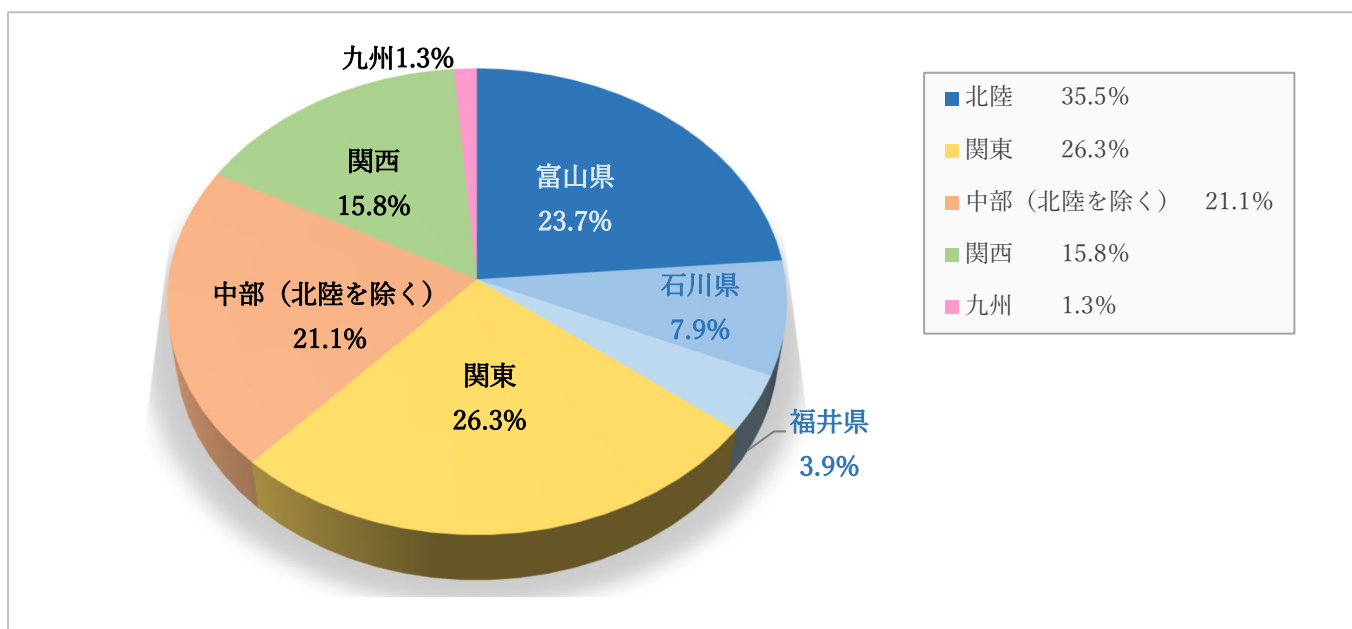


問5 大学院理工学研究科において、理学と工学の分野が連携し基礎・応用の技術革新を目指して、理工学の幅広い分野にわたる融合教育を受けた人材を、これまでの単一の分野の専門的教育を受けた人材と比べて、より必要と考えますか。

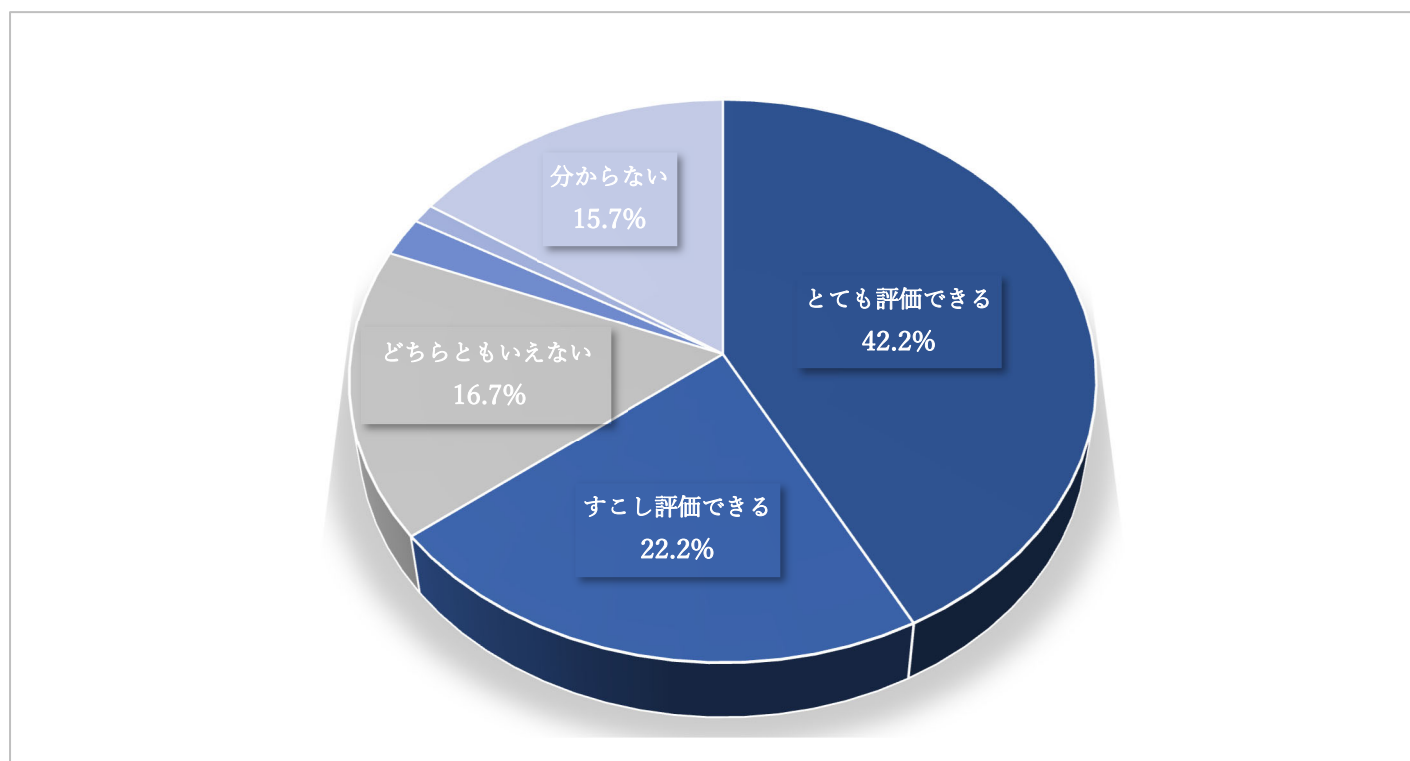


選択肢	回答数	割合
極めて必要である	39	43.3%
どちらかという必要である	37	41.1%
どちらともいえない	8	8.9%
あまり必要でない	1	1.1%
まったく必要でない	1	1.1%
分からない	4	4.4%

「極めて必要である」又は「どちらかという必要である」と回答した企業のエリア別内訳

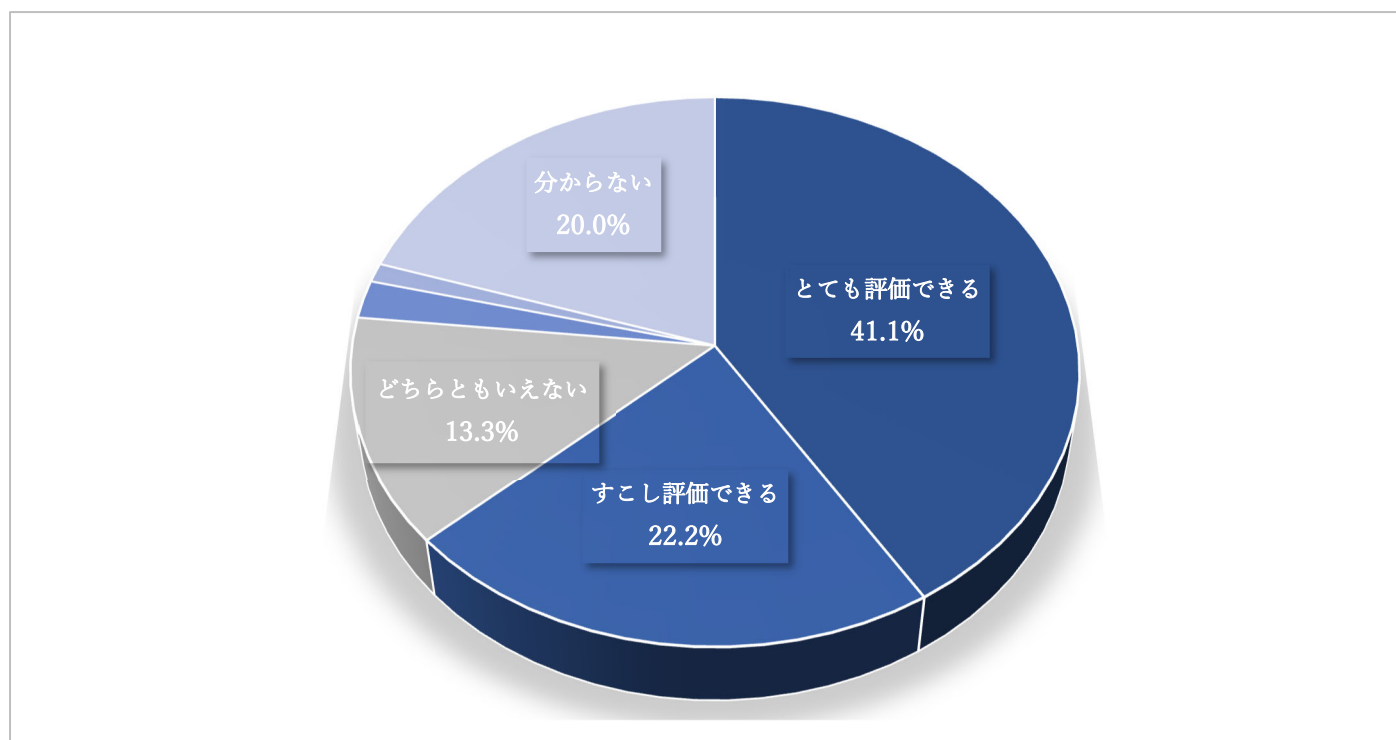


問6 大学院総合医薬学研究科の改組構想は、客観的に判断して評価できますか。



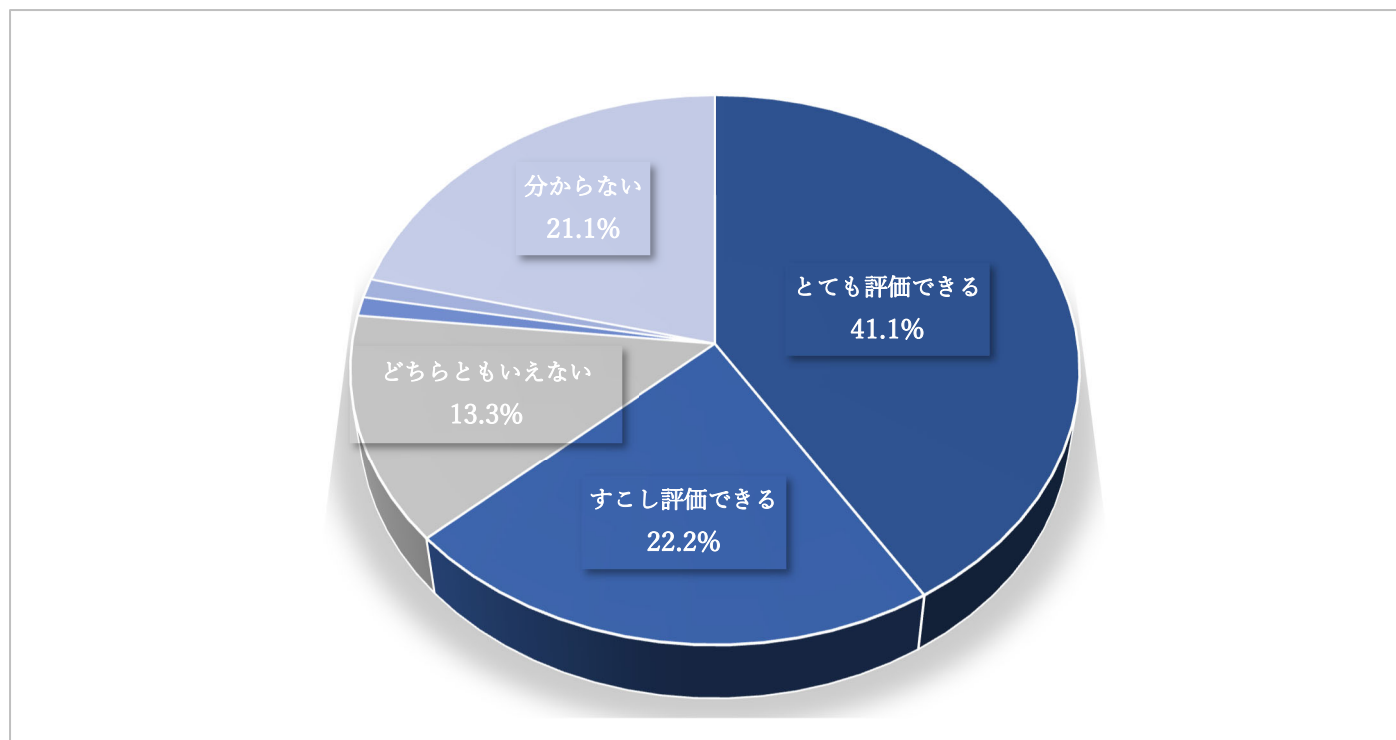
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	38	42.2%
すこし評価できる	20	22.2%
どちらともいえない	15	16.7%
あまり評価できない	2	2.2%
まったく評価できない	1	1.1%
分からない	14	15.6%

問7 大学院総合医薬学研究科は医学系と薬学系を統合した総合医薬学1専攻としました。特に大学附属病院を教育の場として今まで以上に活用し医学・薬学の連携を強化した教育システム構築を特徴としていますが、この取り組みは評価できますか。



選択肢	回答数	割合
とても評価できる	37	41.1%
すこし評価できる	20	22.2%
どちらともいえない	12	13.3%
あまり評価できない	2	2.2%
まったく評価できない	1	1.1%
分からない	18	20.0%

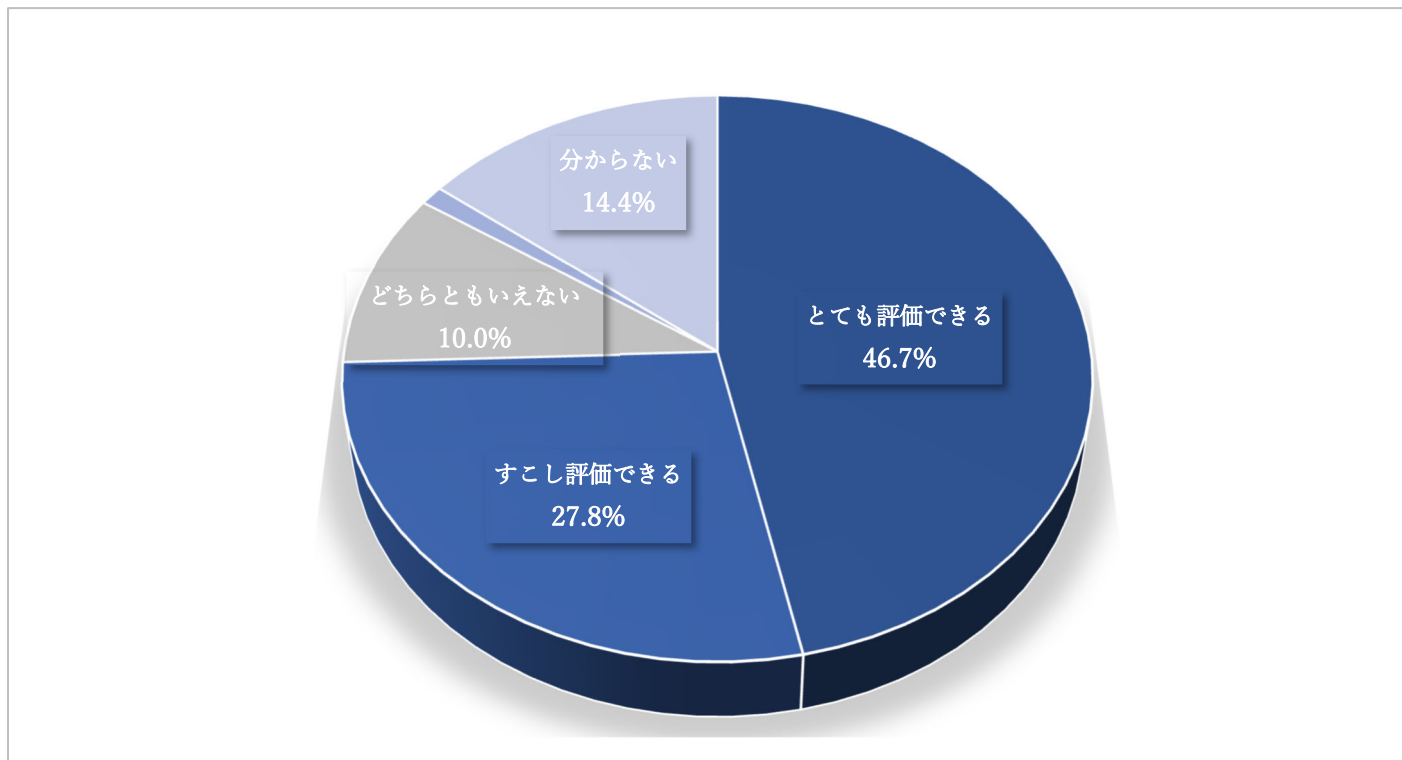
問8 大学院医薬理工学環の設置構想は、客観的に判断して評価できますか。



選択肢	回答数	割合
とても評価できる	37	41.1%
すこし評価できる	20	22.2%
どちらともいえない	12	13.3%
あまり評価できない	1	1.1%
まったく評価できない	1	1.1%
分からない	19	21.1%

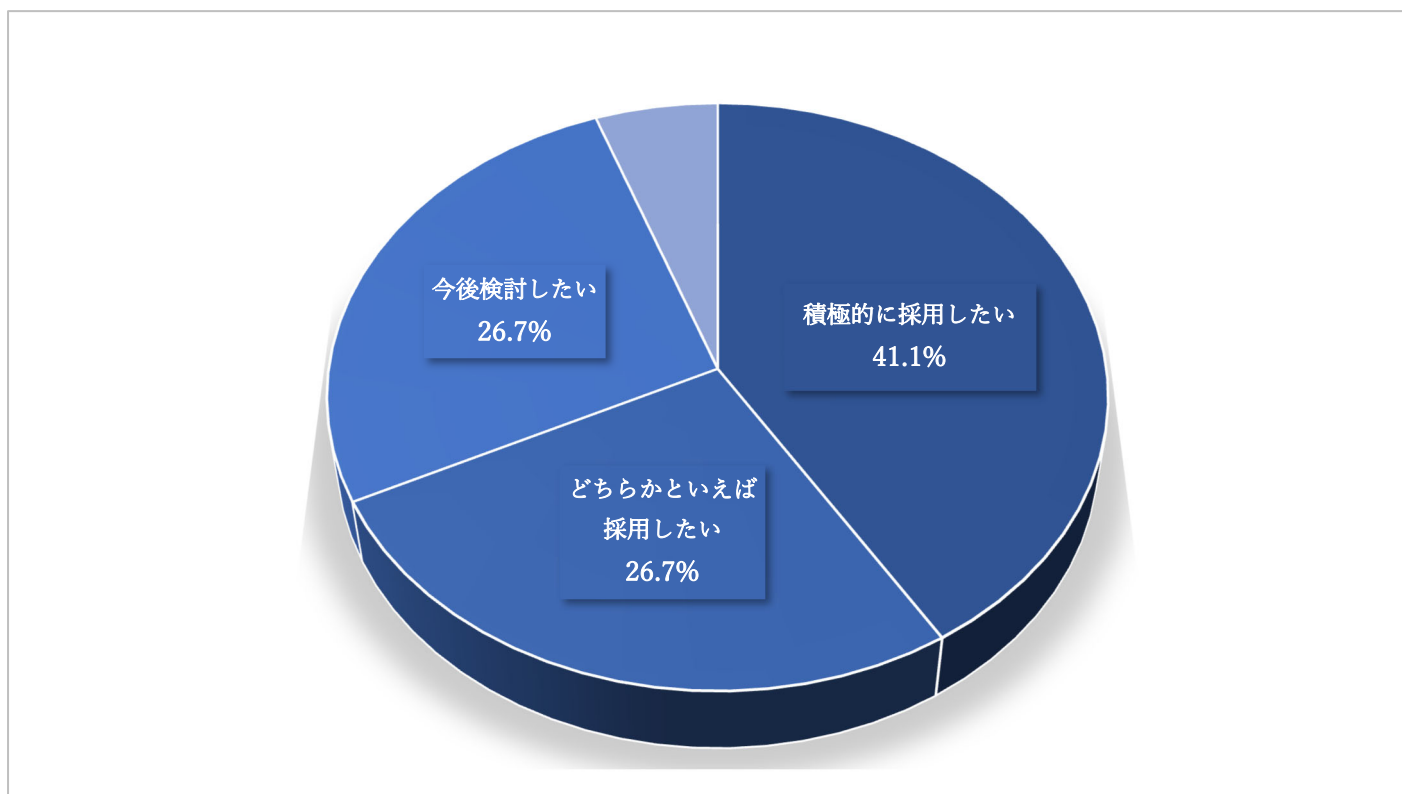


問9 大学院医薬理工学環は、医学系、薬学系、理学系及び工学系の分野融合的な教育により、発展する先端科学技術の創成に求められる「専門分野を掘り下げる能力」、「異分野と連携・融合する能力」及び「学術研究の成果を社会実装に連結する能力」を修得・展開できる教育システム構築を特徴としていますがこの取り組みは評価できますか。



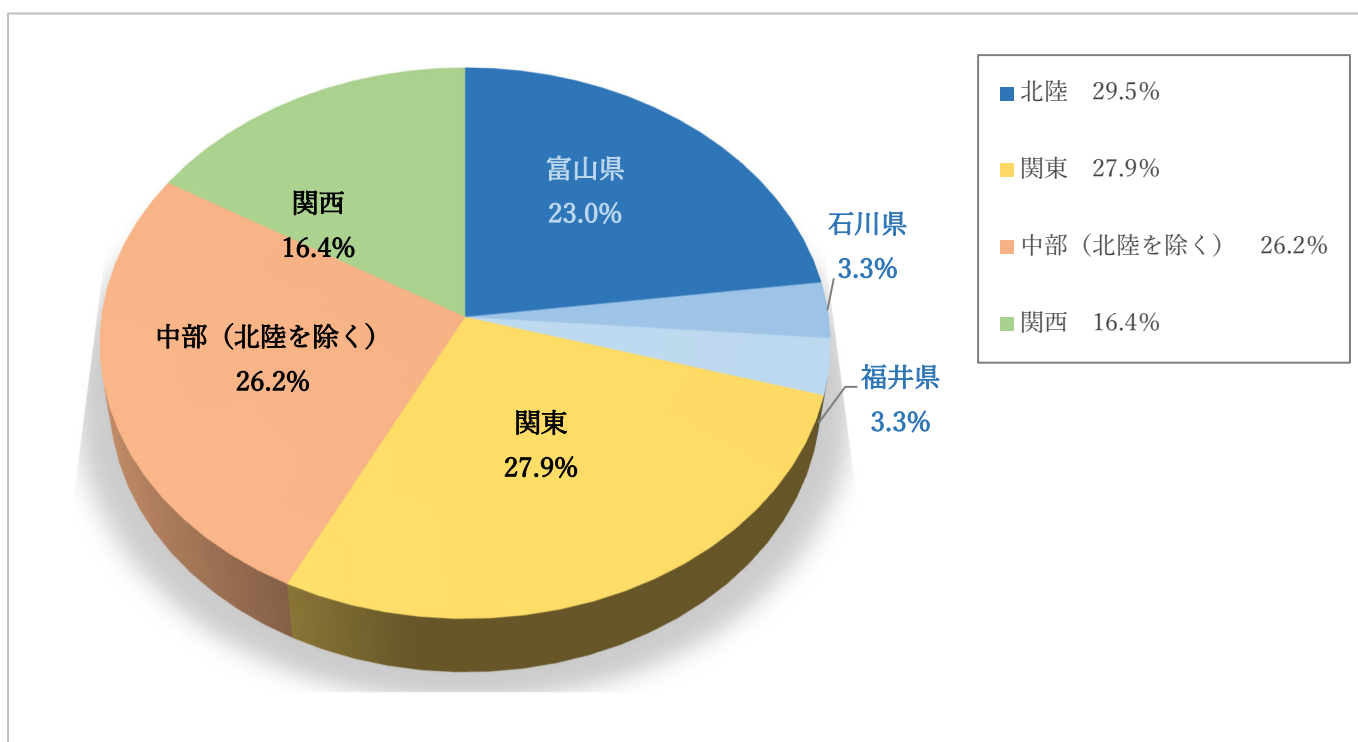
選択肢	回答数	割合
とても評価できる	42	46.7%
すこし評価できる	25	27.8%
どちらともいえない	9	10.0%
あまり評価できない	0	0.0%
まったく評価できない	1	1.1%
分からない	13	14.4%

問 10 大学院理工学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。

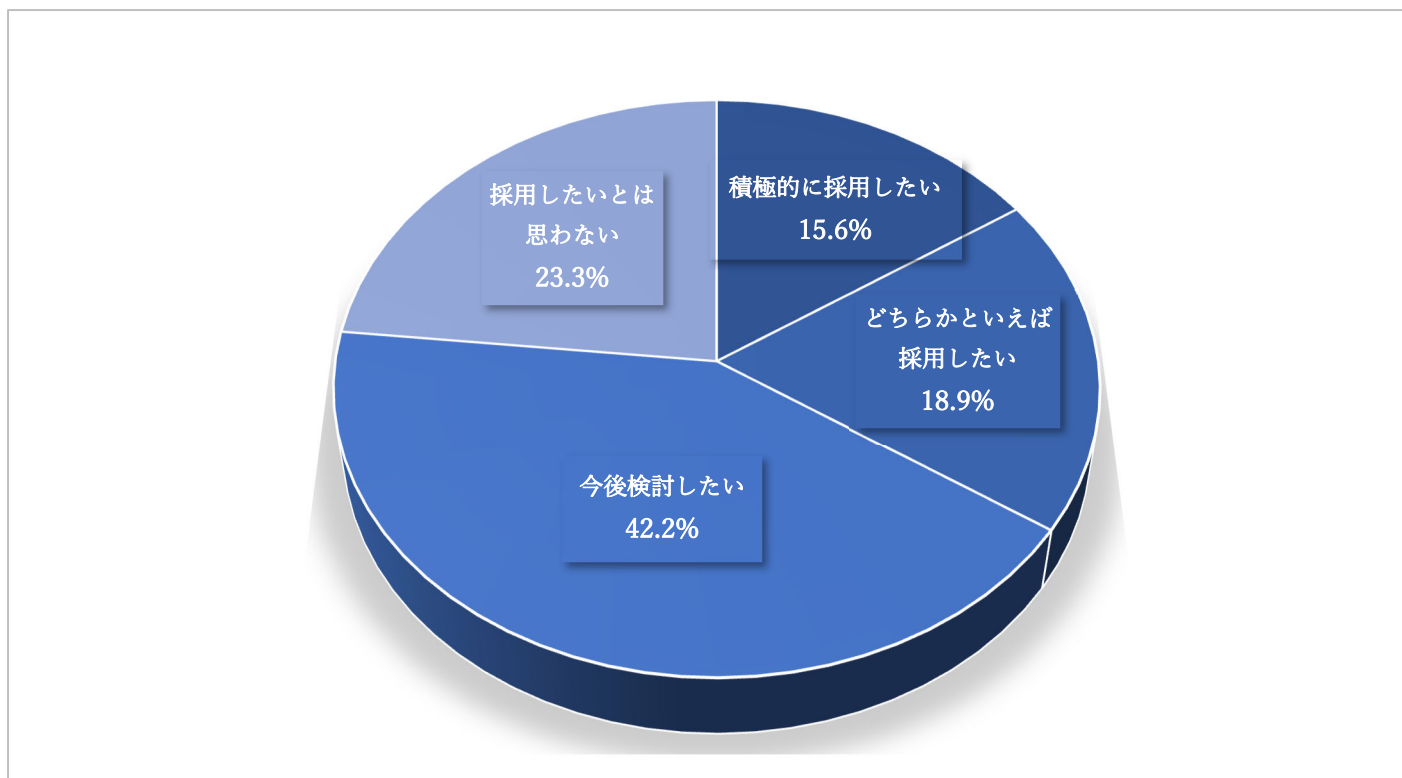


選択肢	回答数	割合
積極的に採用したい	37	41.1%
どちらかといえば採用したい	24	26.7%
今後検討したい	24	26.7%
採用したいとは思わない	5	5.6%

「積極的に採用したい」又は「どちらかといえば採用したい」と回答した企業のエリア別内訳

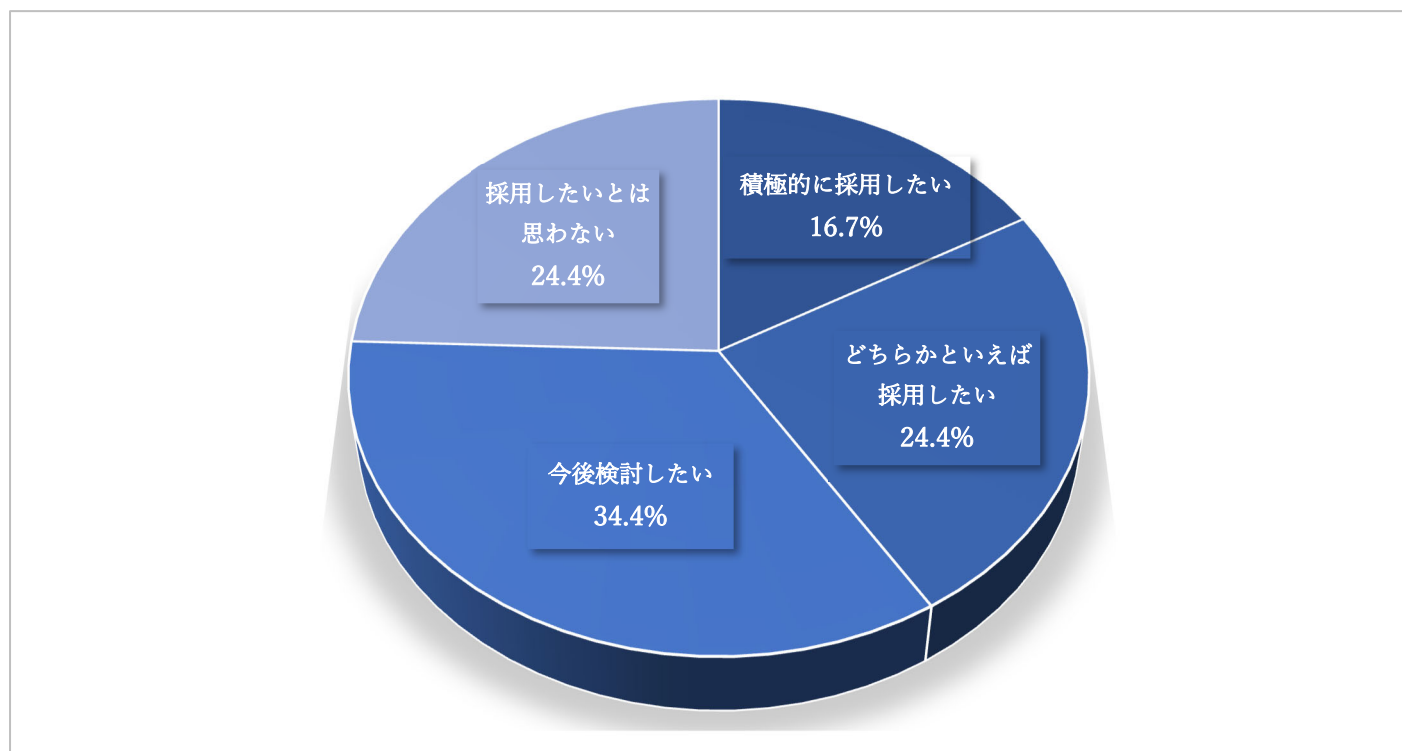


問 11 大学院総合医薬学研究科を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。



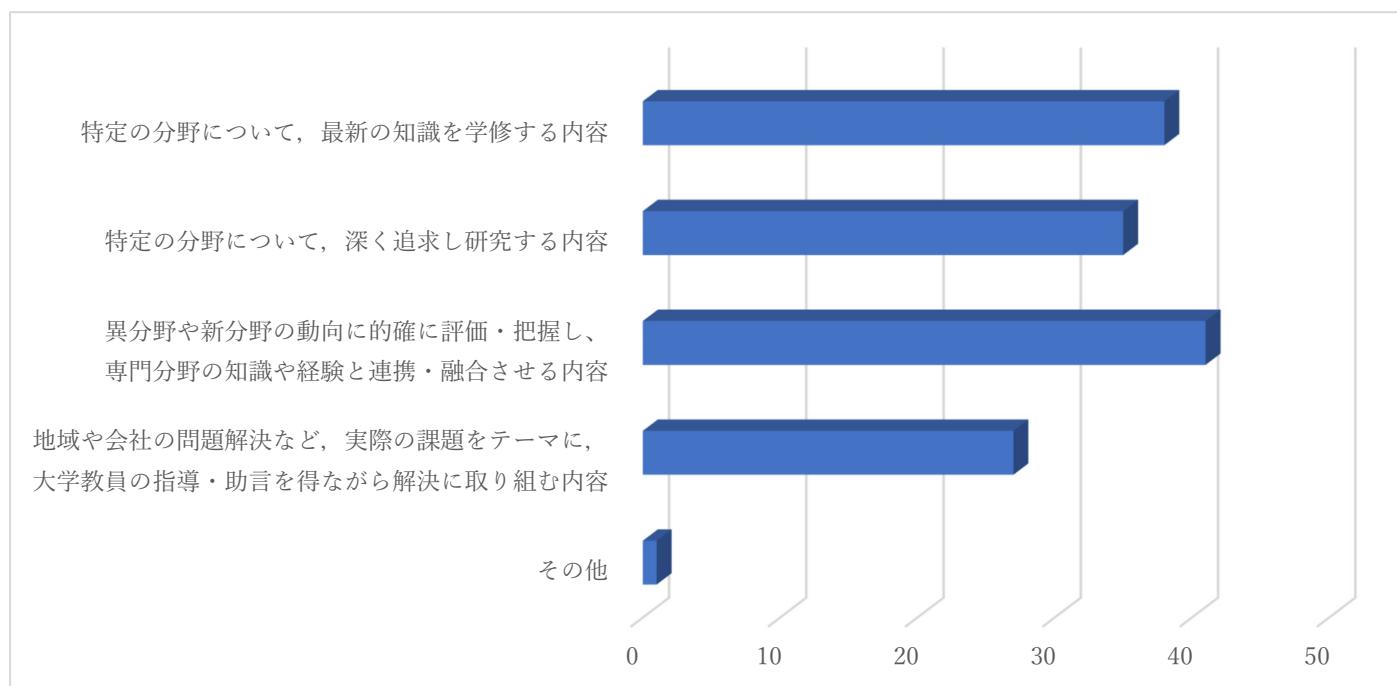
選択肢	回答数	割合
積極的に採用したい	14	15.6%
どちらかといえば採用したい	17	18.9%
今後検討したい	38	42.2%
採用したいとは思わない	21	23.3%

問 12 大学院医薬理工学環を修了し、博士の学位を取得した者の採用についてどうお考えですか。



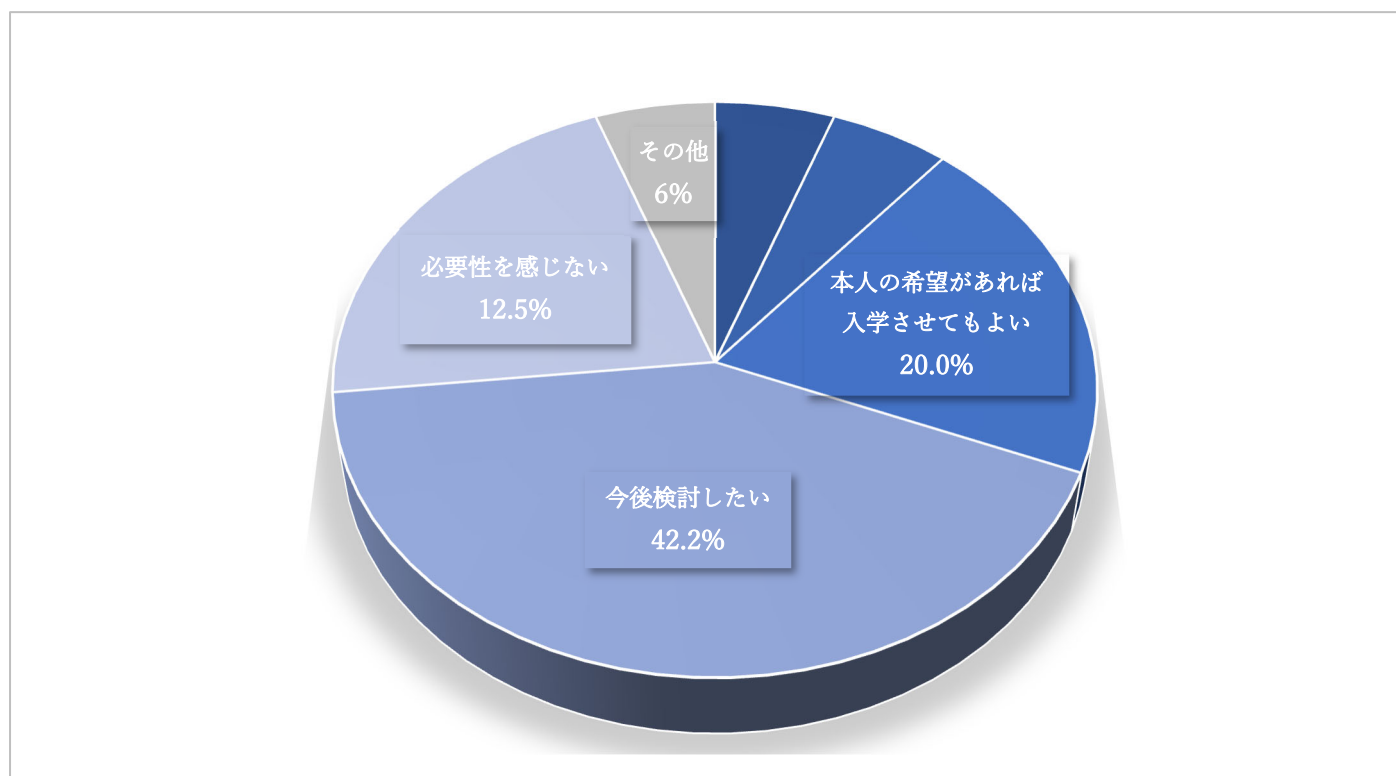
選択肢	回答数	割合
積極的に採用したい	15	16.7%
どちらかといえば採用したい	22	24.4%
今後検討したい	31	34.4%
採用したいとは思わない	22	24.4%

問 13 10.~12.で、「積極的に採用したい」「どちらかといえば採用したい」「今後検討したい」と回答した方に伺います。大学院博士課程へ社員・職員を入学させる場合、大学にどのような教育内容を求めますか（複数回答可）。



選択肢	回答数	割合
特定の分野について、最新の知識を学修する内容	38	58.5%
特定の分野について、深く追求し研究する内容	35	53.8%
異分野や新分野の動向に的確に評価・把握し、専門分野の知識や経験と連携・融合させる内容	41	63.1%
地域や会社の問題解決など、実際の課題をテーマに、大学教員の指導・助言を得ながら解決に取り組む内容	27	41.5%
その他	1	1.5%

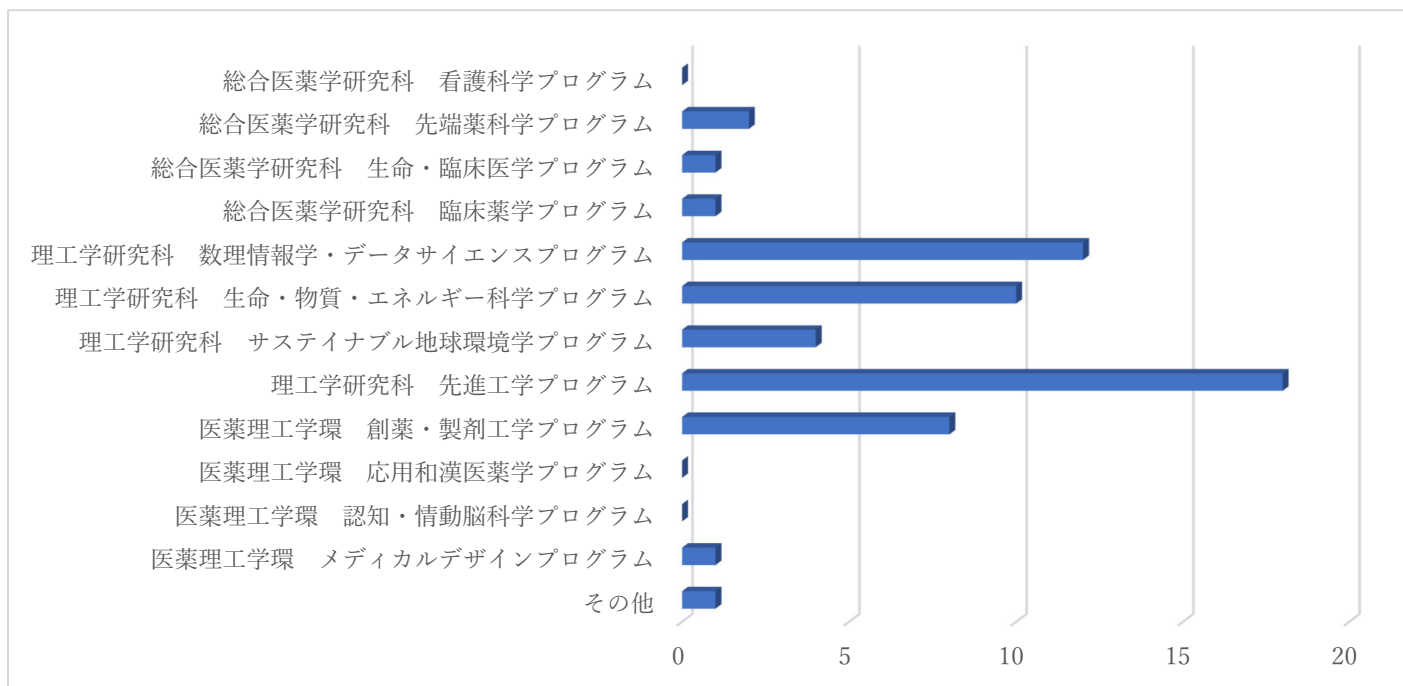
問 14 リカレント教育として貴社の社員・職員を大学院博士課程に入学させたいですか。



選択肢	回答数	割合
ぜひ入学させたい	5	5.6%
どちらかといえば入学させたい	5	5.6%
本人の希望があれば入学させてもよい	18	20.0%
今後検討したい	38	42.2%
必要性を感じない	19	21.1%
その他	5	5.6%

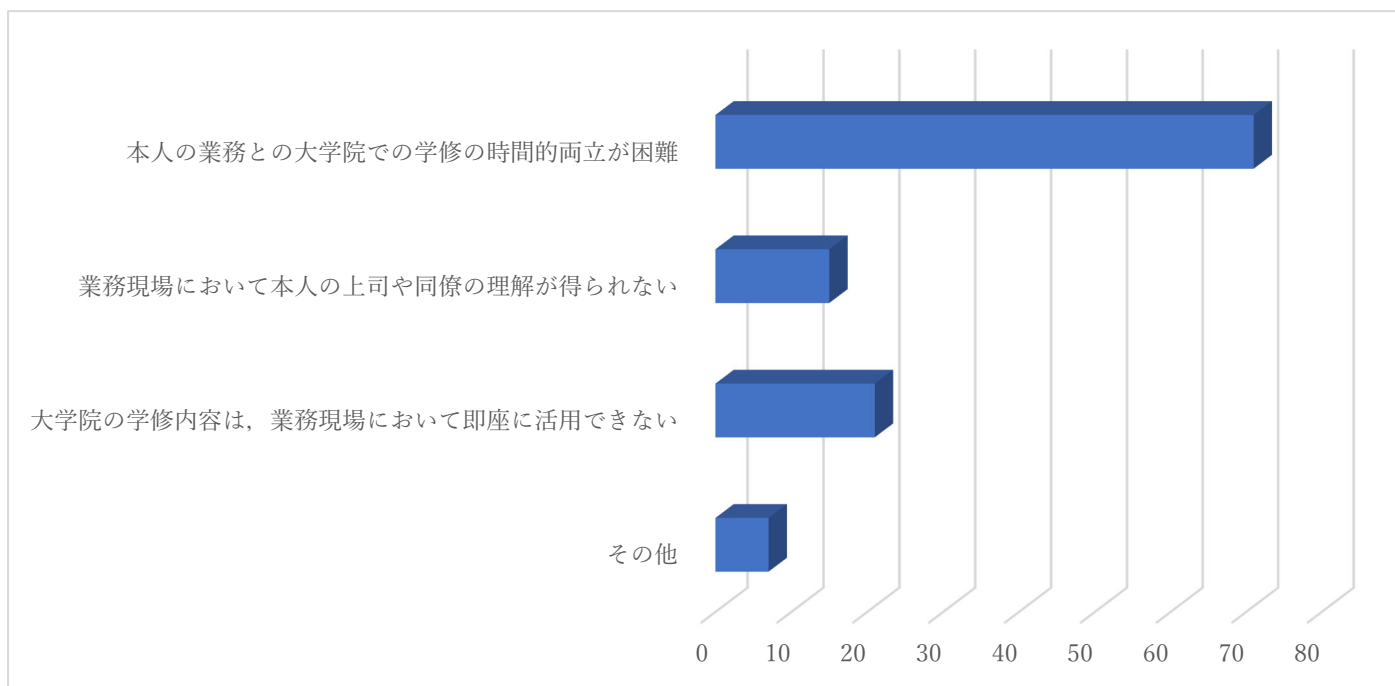
問 15 「ぜひ入学させたい」「どちらかといえば入学させたい」「本人の希望があれば入学させてもよい」「今後検討したい」と回答した方についてお答えください。

どのプログラムに貴社の社員・職員を大学院に入学させたいですか。



選択肢	回答数	割合
総合医薬学研究科 看護科学プログラム	0	0.0%
総合医薬学研究科 先端薬科学プログラム	2	3.4%
総合医薬学研究科 生命・臨床医学プログラム	1	1.7%
総合医薬学研究科 臨床薬学プログラム	1	1.7%
理工学研究科 数理情報学・データサイエンスプログラム	12	20.7%
理工学研究科 生命・物質・エネルギー科学プログラム	10	17.2%
理工学研究科 サステイナブル地球環境学プログラム	4	6.9%
理工学研究科 先進工学プログラム	18	31.0%
医薬理工学環 創薬・製剤工学プログラム	8	13.8%
医薬理工学環 応用和漢医薬学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 認知・情動脳科学プログラム	0	0.0%
医薬理工学環 メディカルデザインプログラム	1	1.7%
その他	1	1.7%

問 16 貴社にとって社員・職員の大学院入学に関して障害と考えられることはどのようなことですか（複数回答可）。



選択肢	回答数	割合
本人の業務との大学院での学修の時間的両立が困難	71	79.8%
業務現場において本人の上司や同僚の理解が得られない	15	16.9%
大学院の学修内容は、業務現場において即座に活用できない	21	23.6%
その他	7	7.9%

問 17 最後に、富山大学大学院の改組構想に関しまして、全体を通じてご意見がございましたらお聞かせください。

- ・改組に関しては博打的側面が大きく、実施してみないとわからないことが多いため、構想段階で評価することは難しいですが、激動の時代を生き抜く次代のリーダーを育成することは必須とされます。大学がタコソボから脱しようとする？様々な試みに取り組んでいらっしゃることはよくわかり、評価できます。
- ・改組構想は評価できます。残念ながら当社の事業における求める人材とは合致しないため採用は難しいと考えます。
- ・工学科の場合もそうですが、○○コースや○○専攻まで確認しないと、学生の専門分野が分かり辛くなっているように感じます。
- ・大学院は「研究」色が強いが、製造系一般企業では「開発」力が求められるので、応用力のある人材育成プログラムをお願い致します。
- ・より幅広い分野を総合的に学ぶことができる取り組みは、とても良いと考えます。
- ・理工学研究科の博士前期、後期課程とも教育内容のイメージが湧きづらい課程名のように感じます。